

二等旅人宿 客室 二十五坪未満十五坪以上ノ家屋  
 三等旅人宿 客室 十五坪未満八坪以上ノ家屋  
 第十九條 客室ハ充分ニ光線ヲ取リ且空氣ヲ流通セシムベシ  
 第二十條 客室毎ニ堅固ナル銃前付ノ押入又ハ戸柵ヲ設クベシ  
 第二十一條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ階子二個以上ヲ設クベシ其階子ノ幅ハ曲尺三尺以上タルベシ  
 第二十二條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及バザル所ニ設ケ尿尿ヲ受容スベキ部分ハ石敲キ陶器等ヲ以テ構造スベシ  
 但シ事情止ムヲ得ザル者ハ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クベシ  
 第二十三條 便所及不潔ノ場所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スベシ  
 第二十四條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルベカラズ  
 但シ全行者ハ此限ニアラズ  
 第二十五條 客室ノ番號并定員ハ其室ノ出入口ニ揭示スベシ  
 第二十六條 旅籠料ハ上中下三等ニ區分シ客ノ需メニ從フベシ

但シ席料及臥具等ノ損料ヲ收得シ宿泊セシムルモ妨ゲナシ  
 第二十七條 旅人宿中牛馬ノ宿ヲ專ラトスル者ハ市街中ニ於テ營業スルヲ許サズ必ラズ衛生上障害ナキ地ヲ擇ムベシ  
 第二十八條 營業者ハ左ノ甲乙號ノ宿泊人名簿ヲ製シ所轄警察署分署巡查派出所交番所所在地ハ毎夜其他ハ隨時巡行巡查ノ檢閲ヲ受クベシ  
 但シ官吏ハ官氏名又隊伍ヲ爲シタル兵隊ハ其隊號及隊長官氏名外何人ト記載スルモ妨ゲナシ

(甲號)

何年何月何日何時投宿	氏名	族籍	住所	住年	職年	前夜宿泊所	行先	別

(乙號)

何年何月何日出發	投宿番號	氏名	出發時間

第三章 下宿屋

第二十九條 下宿屋トハ一ヶ月ノ賄料坐敷料等ヲ約束シテ寄寓セシムルモノヲ云フ

第三十條 下宿屋ハ客室五坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルベシ

第三十一條 下宿屋ハ濫リニ旅人ヲ宿泊セシムベカラズ

第三十二條 下宿屋營業ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍職業住所氏名年齢并ニ下宿ノ事由ヲ記シタル届書二通ヲ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ一通ニ其檢印ヲ受ケ所持スベシ

第三十三條 本章第二十條第二十一條第二十二條第二十三條ハ下宿屋ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第三十四條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スベシ

第三十五條 下宿人他へ轉宿シ又ハ五日以上外宿シテ其所在ノ不明ナルトキハ其旨所轄警察署分署又ハ巡查派出所交番所へ届出ベシ

第四章 木錢宿

第三十六條 木錢宿ハ所轄警察署又ハ分署ノ指定シタル場所ノ外營業スルヲ許サズ (明治二十年九月廿日縣令第七十六號ヲ以テ木錢宿指定地ノ布達發布則チ本則終尾ニ掲載ス)

第三十七條 宿泊人滞在中外宿シタル者アルキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クベシ

第三十八條 宿泊人届出方ハ第二十八條ノ例ニ同シ

第五章 罰則

第三十九條 第二條第四條第六條第十一條第十二條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十條 第八條第二十八條第三十二條第三十五條第三十七條第三十八條ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上壹圓以下ノ

科料ニ處ス

第四十一條 第五條第三十一條第三十四條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

(參照)

○縣令第七十六號

明治二十年九月二十日(靜岡縣公布)

明治二十年八月本縣令第六十四號宿屋取締規則第四章第三十六條ニ依リ警察署又ハ分署ニ於テ木錢宿營業地ヲ指定スルハ當分左ノ各地トス

但指定シタル區域外ニ散在スル營業者ハ明治二十一年二月二十八日限リ指定地内ヘ移轉スベシ

- 駿河國 靜岡 沼津 江尻 清水 藤枝
- 遠江國 濱松 見附 掛川
- 伊豆國 三島 下田 熱海

○第四款 湯屋取締規則

○縣令第四百四號

明治二十年十月十五日(靜岡縣公布)

明治十七年三月本縣甲第二十一號布達湯屋取締規則左ノ通改定ス

但從來ノ營業者ニシテ其構造方等本則ニ適セザル者ハ本年十二月十五日限リ改造スベシ

○湯屋取締規則

第一條 湯屋營業ヲ爲ストスル者ハ左ノ各項ニ依リ浴場並ニ火焚場烟出焚物置場火消場灰置場等ノ位置構造ヲ詳記セル圖面ヲ添ヘ戸長ノ與印ヲ受テ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シテ願出免許鑑札ヲ受クベシ

但落成ノ上ハ届出檢査ヲ受テ開業スベシ

- 第一項 浴場衣類置場ハ男女ヲ區別シ互ニ見透サマル様境界ヲ設クベシ
- 第二項 火焚場ハ甲乙圖ニ依リ不燃質物ヲ以テ構造スベシ
- 第三項 烟出ハ甲乙圖ニ依リ不燃質物ヲ以テ内徑六寸以上ニ構造

スベシ

第四項 烟出ハ屋上へ三尺以上突出サシメ(金屬製ノモノハ其屋根ニ接スル所ニ石土煉瓦石等ノ不燃質物ヲ用フ)其周圍六尺以内ハ不燃質物ヲ以テ覆蓋スベシ

第五項 靜岡ハ甲圖ニ其他ノ市街準市街(明治二十年八月縣令第七十號達)ハ乙圖ニ依ルモ妨ゲナシト雖モ可及的甲圖ニ依テ構造スベシ

第六項 焚物置場ハ火焚場ヨリ二間以上ノ距離ヲ取り又焚物小出場ハ火焚場ヲ距ル三尺以上ノ所ニ不燃質物ノ牆壁ヲ建テ之ヲ設ベシ

第七項 火消場並灰置場ノ構造ハ深サ三尺以上ノ坑穴ニ爲シ各個隔日ノ使用ニ供スル爲メ中央ニ仕切ヲ設ケ其蓋ハ安全ノ不燃質物ヲ用ユベシ尤モ地質ニ依リ石煉化石漆喰敲ノ類ヲ以テ地上ニ構造スルモ妨ゲナシ

第八項 汚水溝及汚水溜ハ厚サ一寸以上ノ木材又ハ石煉化石(繼目ニ漆用ユ)若クハ漆喰敲ヲ以テ構造スベシ

第二條 桶風呂湯屋營業者ハ願書ニ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又

ハ分署ヲ經由シテ願出免許鑑札ヲ受クベシ

但第一條ノ制限ヲ除クノ外總テ此規則ヲ遵守スベシ

第三條 明治十六年甲第九十六號布達賣藥營業手續第二條湯藥(鐵泉中ノ固形物湯ノ花ト唱フル類或ハ幾分)ニ遵フベキ營業者ハ該免許ヲ受クル(鐵泉中ノ混合シ或ハ藥物ヲ加フモノ)ノ後更ニ前二條ノ手續ニ準シ願出免許鑑札ヲ受ベシ

第四條 第三條ノ營業者ハ其ノ種質効能並ニ浴法等ヲ場内見易キ場所ニ揭示スベシ

第五條 廢業者ハ届書ニ戸長ノ與印ヲ受ケ鑑札返納スベシ

第六條 鑑札失損若クハ代替リ改姓名等總テ鑑札面ニ異動ヲ生ジタルルハ其事由ヲ詳記シ第一條末文ノ手續ニ準シ五日以内ニ願出更ニ免許鑑札ヲ受クベシ

第七條 浴場ノ衣類物品等ハ紛失セザル様注意スベシ

第八條 遺留品又ハ換易ノ衣類物品等アリテ五日以内ニ物主知レザルルハ所轄警察署又ハ分署若クハ巡查派出所へ該品持參届出ベシ

但シ故ヲニ換易シタル物ト思量シタル片ハ速カニ届出ベシ

第九條 梅毒其他現ニ不潔ナル疾病ニ罹居者ハ入浴セシムベカラズ

但シ治病ヲ目的トスル浴場ハ此限リニ非ズ

第十條 浴場ハ男女混同セシム可カラズ

但七年未滿ノ者ハ此限ニ非ラズ

第十一條 浴場並ニ浴客溜客室等ハ外面ヨリ見ハザル様簾又ハ其他

ノ物ヲ以テ見隠ヲ設クベシ

第十二條 浴客ノ需メニ應シ酒肴ヲ差出ス可カラズ

但シ別ニ宿屋料理屋若クハ飲食店等ノ營業ヲ爲スモノハ此限ニ

非ラズ

第十三條 毎月一回休業シテ浴場火焚場烟出天井裏等清潔ニ掃除ス

ベシ

但シ掃除ノ日時ハ各組合ニ於テ之ヲ定メ豫メ所轄警察署又ハ分

署へ届置クベシ

第十四條 夜間ハ午後十二時限リ入浴ヲ止メ火ノ元ニ注意スベシ

但シ烈風ノ節ハ時間ニ拘ハラズ停業セシムルコトアルベシ

第十五條 火消場並ニ灰置場ノ周圍ニ焚物其他燃質物ヲ置可カラズ

第十六條 灰又ハ消炭ハ投坑後十二時間ヲ經過シ火氣消盡シタル後

ニ非ザレバ坑外ニ出ス可カラズ

第十七條 浴場並ニ火焚場烟出等ヲ改造セントスル片ハ其圖面ヲ添

ヘ所轄警察署又ハ分署へ申出認可ヲ得落成ノ上ハ検査ヲ受クベシ

第十八條 浴場火焚場等ハ警察官吏ニ於テ臨時點檢スルコトアルベシ

第十九條 營業者ハ警察署又ハ分署ノ所轄内毎ニ組合ヲ定メ取締一

名乃至數名ヲ公撰シ撰舉人二人以上ノ連署ヲ以テ所轄警察署又ハ

分署へ申出認可ヲ受クベシ其交換ノ都度亦同シ

但シ警察署又ハ分署ニ於テ當撰人ヲ不適當ト認ムルトキハ何時

タリ共改撰ヲ命ズルコトアルベシ

第二十條 取締ハ二ヶ年毎ニ改撰スベシ

但シ再三撰スルモ妨ゲナシ

第二十一條 取締ハ組合營業者名簿ヲ調製シ置クベシ

第二十二條 取締ハ營業者ノ諸願屆書ニ連署シ又ハ該營業者ニ關スル諸達等ヲ組合ニ通知シ其他諸般ノ取締ヲ爲スベシ

第二十三條 各組合ニ於テ規約ヲ設ケタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ申出認可ヲ受ベシ其訂正追加スルキ亦同シ

第二十四條 第一條第二條第三條第十三條第十五條第十六條ニ違犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

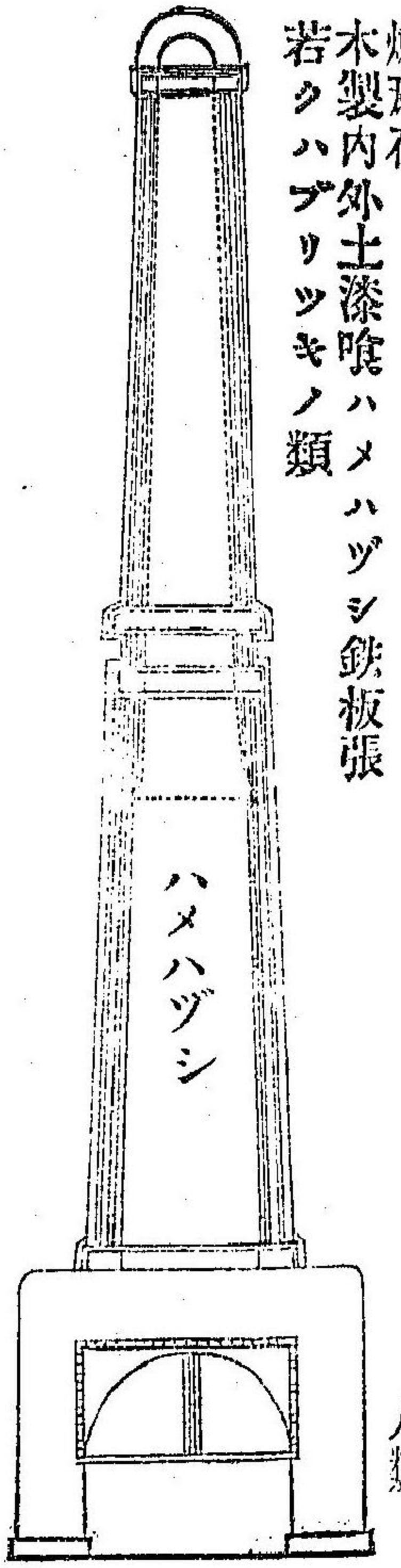
第二十五條 第四條第六條第九條第十條第十一條第十二條第十四條第十七條ニ違犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

甲圖

石  
土漆喰  
煉化石

ハ朱

煉瓦石  
木製内外土漆喰ハメハツシ鉄板張  
若クハブリツキノ類

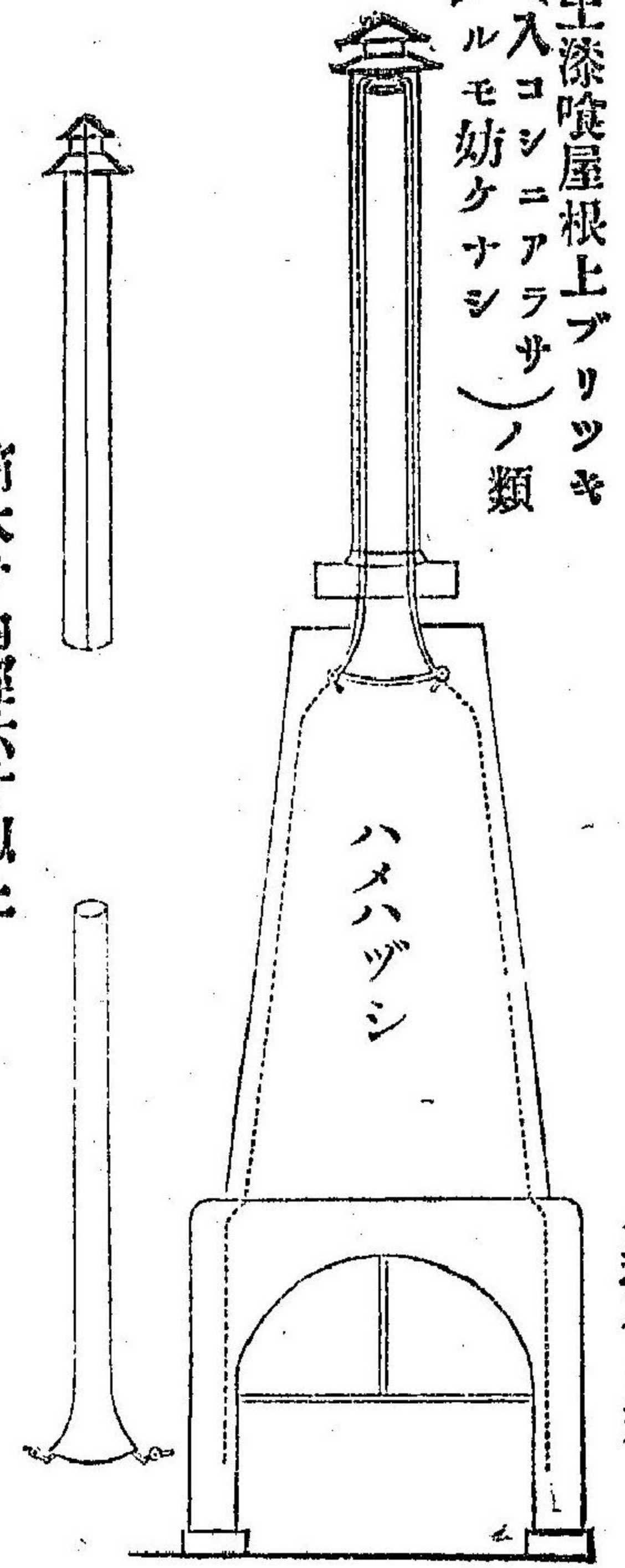


人類

筒大サ内徑六寸以上

乙圖

木製内外土漆喰屋根上ブリツキ  
入コシ筒(入コシニアラサ)ノ類  
ルモ妨ケナシ



石  
土漆喰  
煉化石  
人造石ノ類

筒大サ内徑六寸以上

●第三章 茶業蠶絲業及印刷營業

◎第一款 茶業組合規則

◎農商務省令第四號

明治二十年十二月二十九日(公布)

茶業組合規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但シ十七年三月第四號達茶業組合準則ハ廢止ス

◎茶業組合規則

第一條 此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス

第二條 茶業者ハ製品ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之ニ加入スベシ

但シ自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ組合ニ加入セシメザルモ妨グナシ

第三條 組合ノ設置ハ郡區ノ區畫ニ依ルベシ若シ一郡區内ニ於テ茶

業者小數ナルトハ近隣郡區ノ同業者ト合併スルコトヲ得

第四條 郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シ

テ生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者トテ區別シテ組合ヲ設ルノ必要アルキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第五條 組合ノ名稱ハ何(府縣)何(郡區)茶業組合ト稱スベシ

第六條 組合ハ郡區内便宜ノ場所ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スベシ

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ東京ニ中央會議所ヲ設クベシ

第八條 組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其業務ニ關シ組合及會議所ノ規約ヲ定ムベシ

第九條 組合及聯合會議所ノ規約ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二章 組合員

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ズ  
第十一條 組合員ハ組合及會議所ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔ス  
ルノ義務アルモノトス

但シ費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ  
第十二條 社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定  
メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任ゼシムベシ

第三章 役員

第十三條 各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員  
之ヲ撰定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互撰スベシ

但シ撰任及改撰ノ都度聯合會議所ヲ經テ地方廳ニ届出ベシ

第十四條 組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ  
事務ヲ整理スベシ

第十五條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルベシ  
第十六條 組長ハ部内組合中ニ生ジタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者ア

ルキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但シ會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルキハ其旨會議所  
ニ通知スベシ

第十七條 組長ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議及中央會議ニ列スルコ  
トヲ得

第十八條 聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事  
務及聯合會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムベシ

第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ  
撰定シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列ス  
ルコトヲ得

第二十一條 中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル  
事務及中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムベシ

第二十二條 中央會議所ノ事務員ハ中央會議々員ニ於テ全國組合員



中ヨリ之ヲ撰定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

但シ時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖モ撰舉スルコトヲ得

第二十三條 中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

第四章 會議

第二十四條 會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クベシ

第二十五條 聯合會議ニ於テハ會議所々在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テ全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スベキモノトス

第二十六條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合員之ヲ撰定シ中央會議ノ議員ハ聯合會議々員之ヲ撰定スベシ

第二十七條 聯合會議及中央會議ニ出席スベキ議員ノ數ハ産額ノ多

寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムベシ

第二十八條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互撰スベシ

第二十九條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名並ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ地方廳ニ其中中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出ベシ

第三十條 農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ノ改撰ヲ命ズルコトアルベシ

第三十一條 會議ハ議員半數以上出席セザレバ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得ズ

但議員半數以上ノ欠席三日以上ニ涉ルモハ半數以內ト雖モ議事ヲ開クコトヲ得

第三十二條 議事ハ出席員過半數ニ依テ決ス可否同數ナルモハ議長ノ決スル所ニ據ル

第五章 規約

第三十三條 各組合ノ規約ハ其部内組合員中ヨリ委員ヲ撰定シ左ノ事項ニ準シテ之ヲ定ムベシ

- 一 組合ノ位置
- 一 組合員ノ位置
- 一 粗悪不正茶取締ノ方法
- 一 役員撰擧ノ方法
- 一 組合入退者取扱ノ方法
- 一 違約者處分ノ方法
- 一 經費賦課徴収支出ノ方法
- 一 其他組合ノ情况ニ依リ必要ナル條件

第三十四條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムベシ

- 一 聯合會議所ノ位置
- 一 製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法

第三十五條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムベシ

- 一 中央會議所ノ位置
- 一 全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法
- 一 内外茶業ノ實況ヲ調査シ及之ヲ報告スルノ方法
- 一 中央會議議員及事務員選舉ノ方法
- 一 會議ニ關スル規程
- 一 經費賦課徴収支出ノ方法

一 其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件  
第六章 罰 則

第三十六條 此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ  
金貳圓以上金貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

◎第二款 蠶種検査規則

◎農商務省令第九號

明治十九年八月十七日(公布)

蠶種微粒子病(一名黑痣病)豫防ノ爲メ蠶種検査規則左ノ通相定メ原種  
ノ検査ハ明治二十年検査期ヨリ施行シ製絲用種ノ検査ハ同二十一  
年検査期ヨリ施行ス

◎蠶種検査規則

第一條 凡ソ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスル者ハ管轄廳ニ  
願出テ鑑札ヲ受クベシ

第二條 蠶種ヲ製造スル者ハ此規則ニ從ヒ其検査ヲ受クベシ

第三條 検査證印ナキ蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ズ

第四條 蠶種検査所ハ管轄所ニ於テ管内便宜ノ地ニ之ヲ設置スベシ  
但地方ノ狀況ニ由リ巡廻検査ヲナスモ妨ゲナシ

第五條 蠶種検査員ハ管轄廳ニ於テ之ヲ命ズベシ  
但検査ノ方法ハ別ニ訓令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 春蠶種ノ検査ハ毎年十月一日ヨリ始メ夏蠶種秋蠶種ノ検査  
期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

第七條 蠶種ヲ製造スル者ハ春蠶種ノ掃立枚數及製造額ヲ毎年七月  
三十一日マデニ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及製造豫算額ヲ検査期日

ヨリ三十日以前ニ管轄廳ニ届出ツベシ

第八條 蠶種ニハ製造人ノ住所氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記  
シ之ヲ原種販賣用種ノ製造ニ用フルモノヲ云フト製糸用種トニ區

別シテ検査所ニ差出スベシ

第九條 病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製糸用種ニ於テハ百  
分ノ十五以下ノモノニ検査證印ヲ付シ其以上ニ及ブモノニハ都テ

廢棄證印ヲ付スルモノトス

第十條 廢棄證印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ズ

第十一條 蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣スル者廢業スルカ他ノ管轄地ニ寄留若クハ轉籍スルトキハ其旨ヲ管轄廳ニ届出テ鑑札ヲ返納スベシ

但寄留若クハ轉籍地ニ於テ營業セントスルキハ第一條ニ據ルベシ

第十二條 第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○第三款 蠶糸業組合規則

○静岡縣甲第九十九號

明治十八年十一月十八日(公布)

蠶糸業組合規則別紙之通相定候條該規則ニ基キ組合相立其規約書ハ當廳ノ認可ヲ受クベシ此旨布達候事

○蠶糸業組合規則

第一條 蠶糸業ニ従事スルモノハ栽培者製造者(自用ノミニ供スル)及販賣者

ヲ問ハズ郡又ハ町村(數郡町村並ニ合坊ケナシ)ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置シ其組合ニ加盟スベシ

但土地ノ便宜ニヨリ出張所ヲ設クルヲ得

第二條 組合ノ名稱ハ静岡縣何村郡蠶糸組合ト稱スベシ

(明治十九年三月二十五日静岡縣甲第三十四號ヲ以テ本則第一條第二條右ノ如ク改正セラル)

第三條 蠶ハ春夏秋冬若クハ黄白ノ種類又ハ太陽殺蒸殺燥殺等混淆シ

タルモノヲ賣買スベカラズ

蠶荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シ

タル標章ヲ付シ賣買スベシ

一捆ハ勿論一總若クハ一把中良否混淆等ノ者ヲ製造販賣スベカラズ

但等級ヲ區分シテ一捆トナシタルモノハ此限ニアラズ

生糸ノ製造及結束ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買スベカラズ

提造島田折返造等ノ生糸ヲ揚返サズシテ其儘改造賣買スベカラズ

生糸荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入

シタル標章ヲ付シ賣買スベシ(明治廿年六月縣令第五十四號ヲ以テ  
本則第三條右ノ如ク更ニ改正セラル)

第四條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムベシ

第五條 組合員ハ必ズ其組合ノ證票ヲ携帯スベシ

但シ證票ニハ當廳ノ檢印ヲ受クベシ

第六條 組合員證票縱形ハ左ノ如シ

厚漉西洋紙堅四寸

表  
分五寸二横

第何號  
静岡縣下  
何々蠶絲組合員之證  
静岡縣下國郡町村  
何之誰

裏

年號月日  
縣廳  
檢印  
何々蠶絲  
組合之印

第七條 組合委員時々組合内ノ實況ヲ檢査スベシ

第八條 蠶糸組合取締所ヲ静岡ニ設ケ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實  
施ヲ監査スベシ

第九條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互選スベシ

第十條 組合及取締所ニ關スル費用收支ハ各組合員集議ヲ以テ之ヲ  
定ムベシ

第十一條 全國中便宜ノ地ニ蠶糸組合中央部ヲ設ケ各地ニテ蠶糸組  
合取締所ノ氣脈ヲ聯通スベシ

第十二條 蠶糸組合中央部ノ規約ハ農商務省ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 蠶糸組合中央部ノ役員ハ各地ニテ蠶糸組合取締所ノ役員  
中ヨリ互選スベシ

但時宜ニヨリ役員外ノ者ト雖モ之ヲ選舉スルヲ得

第十四條 蠶糸組合中央部ノ費用收支ハ各地蠶糸組合取締所役員ノ  
集議ヲ以テ定ムベシ

第十五條 此規則第一條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留  
ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

同規則第三條第五條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢

●第四編 第三章 第三款蠶糸業組合規則

以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第十六條 右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クルコトヲ得(明治廿年六月縣令第五十四號ヲ以テ本則第十五條ヲ右ノ如ク追加シモト十五條ヲ十六條ト改稱セラレタリ)

○第四款 印版取締規則

○静岡縣甲第七十二號

明治十六年八月十日(公布)

印版取締規則別紙ノ通和定候條此旨布達候事

(別紙) ○印版取締規則

第一條 印版彫刻ノ業ヲ營ムモノハ其住所氏名ヲ所屬警察署又ハ分署ヘ届出ツ可シ

但住所氏名ヲ變換シ又ハ廢業ノ節ハ其旨届出ベシ

第二條 官廳外ヨリ官印ノ彫刻ヲ乞フモノアルキハ其者ノ住所氏名ヲ聞取リ該官廳ヘ伺出指揮ヲ受クベシ

第三條 權利義務ニ關スル證據トナルベキ印章ノ彫刻ヲ乞フ者アルキハ其年月日及依囑者ノ住所氏名ヲ帳記シ竣工ノ上ハ印譜ニ印影

ヲ存シ且ツ依囑者ヘ渡シタル年月日ヲ記載シ置クベシ

但本文ノ簿冊ハ廢業后ト雖モ最終記載ノ日ヨリ滿十ヶ年間保存

シ置クベシ

第四條 磨滅欠損等ニテ舊印ノ如ク彫刻ヲ乞フカ若クハ捺印ヲ注文スル者アルキハ必ズ後證ニナルベキ爲メ字畫又ハ邊線ノ内幾分ヲ變更シ置クベシ

第五條 印面ノ上半又ハ下半或ハ左右半面ノ類總テ印面ノ全跡ヲ欠キタル印章ノ彫刻ヲ乞フ者アルキハ所屬警察署分署若クハ派出所交番所又ハ巡行ノ警察官吏ヘ密告スベシ

第六條 第一條第三條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七條 第二條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

(明治廿年九月縣令第七十四號ヲ以テ本則第五條分署ノ下ヘ「若クハ派出所」ノ六字追加及第六條第七條右ノ如ク更正セラレタリ)

●第四章 古物商質屋及雜則營業

◎第一款 古物商取締條例

◎太政官第五十號

明治十六年十二月二十八日(布告)

古物商取締條例別冊ノ通リ制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス  
右奉 勅旨布告候事

(別冊) ◎古物商取締條例

第一條 古物商トハ古道具古本古書畫古銅鉄潰金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋小間物屋籠甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スベシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クベシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルキハ之ヲ記載スベシ

第四條 身元詳ナラザル者ヨリ物品ヲ買取又ハ交換スルコトヲ得ズ

但身元詳ナル者其證人タルキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルキハ此限リニアラズ

第五條 十五年未滿ノ者白痴癡癪者及雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取又ハ交換スルコトヲ得ズ

但シ父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限リニアラズ

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ベキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非ザレバ之ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ズ

第二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サル、コトアルベシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハズ盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買

取リ又ハ交換シ及寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クベシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及賣主讓主ノ居室ノ外ニ於テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ズ

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込タル器具ハ身元詳ナラザル者及盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡シ讓渡シ又ハ露店及路傍ニ於テ賣渡シ讓渡スコトヲ得ズ

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ベシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押ユルコトアルベシ

但シ費用ハ届人之ヲ擔當スベシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ

附記スベシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買ヒ取リ又ハ交換シ及ビ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルモハ直チニ所轄警察署ニ届出ツベシ若シ届出デズシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハザル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ビ品觸寫書ハ十年間保存スベシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ届ケ出ベシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舖ニ臨ミ物品及ビ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルベシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及刑法第三百九拾九條第四百一



●第四編 第四章 第一款古物商取締條例

條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳(東京府ハ)ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フベシ

一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢

及ヒ物品ノ形狀徵章番號柄模機損所ノ類ヲ云價格年月日時ヲ簿冊ニ記載スベシ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ズ

三 營業者ニアラザルモノヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキ

ハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スベシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價格年月日

時ヲ簿冊ニ記載シ且ツ買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タ

ルトキハ之ヲ記載スベシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ

受クベシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスル

トキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クベシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十

七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直チニ之ヲ納完セシム若シ

納完セザル者ハ留置セラレ、コトアルベシ

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルキハ行政ノ處分ヲ以

テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贓物ニ係ル

モノハ營業者ニ係ルト否トヲ問ハズ警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被

害者ニ還付スベシ若シ被害者知レザルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後

官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責

ニ任スベシ

●第四編 第四章 第一款古物商取締條例

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東京府ヲ除ク)縣令ニ於テ便宜取設ク内務卿ニ届出ベシ

○第二款 古物商取締條例細則

○静岡縣甲第十號

明治十七年一月三十一日(公布)

古物商取締條例第二十三條ニ依リ細則別紙ノ通り相定候條此旨布達候事

(別紙) ○古物商取締條例細則

第一條 古物商ハ左ノ種別ニ依リ各警察署又ハ分署所轄内ヲ一組合

トナシ毎組合取締一名副取締一名乃至數名ヲ置クモノトス

但シ營業者少ナキ地ハ二種若クハ三種ヲ合セ一組合ト爲スヲ得ル

第一種 古道具商 古本商 古書畫商 古着商 刀劍商

第二種 古銅鐵商 漬金銀商 飾屋 箔打屋

第三種 袋物屋 小間物屋 籠甲屋 時計屋 煙管屋

第二條 此營業ヲ爲ントスル者ハ其業名及住所(本籍寄留地トモ)身分氏名年齢

(床店又ハ露店(刀劍商ヲ除ク)ニテ販賣セントスル者ハ其場所ノ圖面ヲ添ヘ行商セントスルモノハ其旨ヲ記載スベシ)等ヲ詳記セル願書ニ取締連署

戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ願出免許鑑札ヲ受クベシ

但シ行商スル者ハ其時間鑑札ヲ携帯スベシ

第三條 家屬又ハ雇人ヲシテ行商セシメントスル者ハ其氏名年齢等

ヲ詳記シ前條ノ手續ヲ以テ願出免許鑑札ヲ受ケ營業時間之ヲ携帯

セシムベシ

第四條 市場ヲ開カントスル者ハ其場所ヲ記載セル願書ニ圖面相添

ヘ取締連署戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ届出許可ヲ受クベシ

第五條 鑑札ハ賣買讓與貸借スルコトヲ許サズ

第六條 轉居改姓名又ハ鑑札遺毀シタルキハ其事由ヲ詳記シ第二條

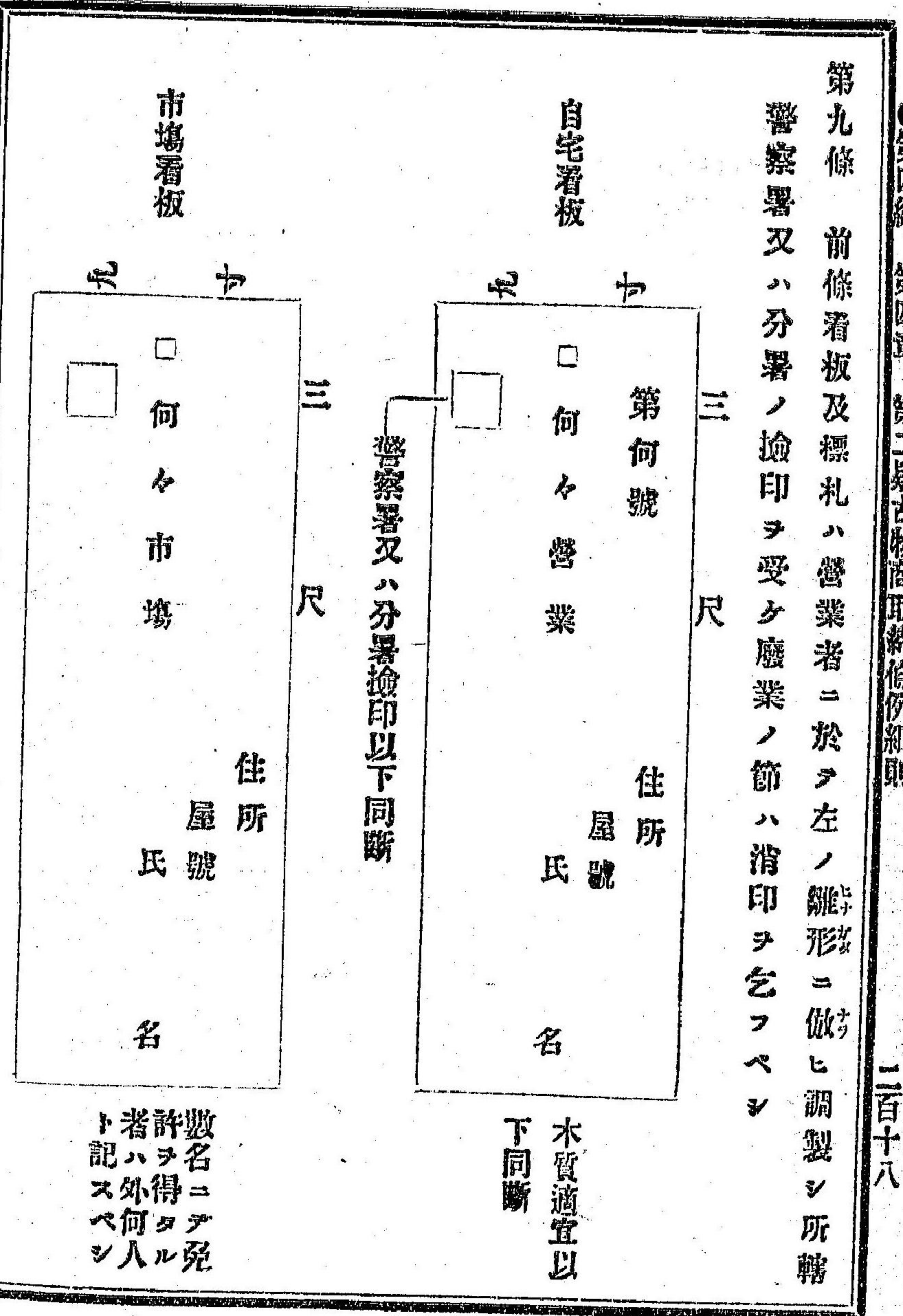
ノ手續ヲ以テ鑑札再渡又ハ書換ヲ願出ベシ

第七條 廢業又ハ轉業ノ節ハ第二條ノ手續ヲ以テ鑑札ヲ返納スベシ

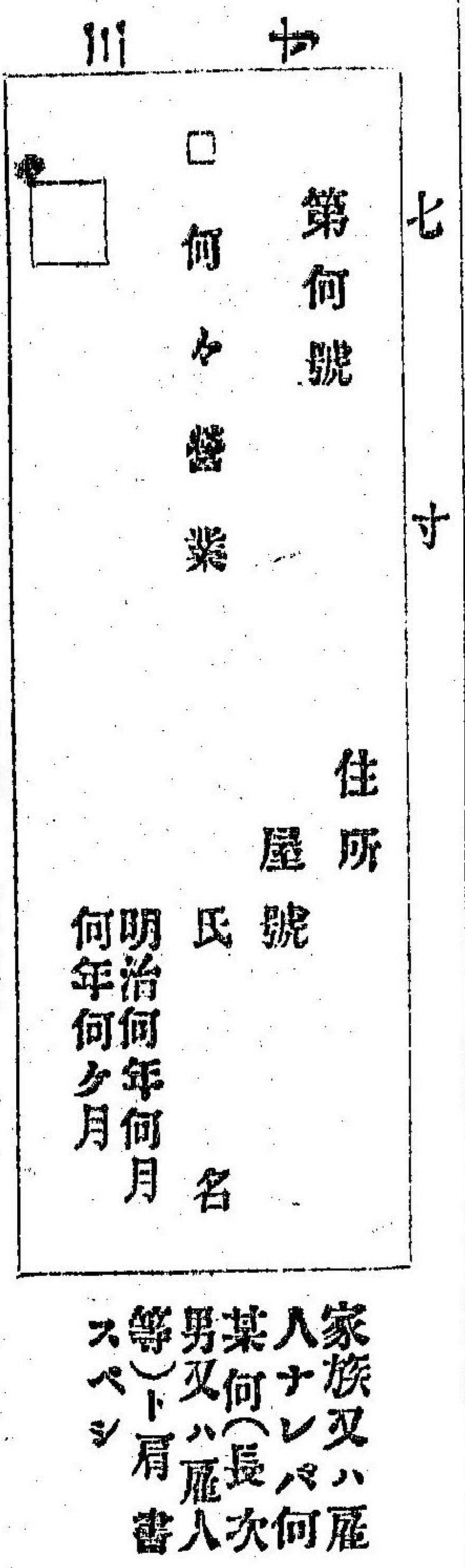
第八條 營業者ハ其店頭及市場ニ看板ヲ掲ケ行李又ハ目籠等ヲ携ヘ

行商スルモノハ其外面ニ標札ヲ附スベシ

第九條 前條看板及標札ハ營業者ニ於テ左ノ離形ニ倣ヒ調製シ所轄警察署又ハ分署ノ捺印ヲ受テ廢業ノ節ハ消印ヲ乞フベシ



床店又ハ  
露店看板  
及行商標  
札



第十條 取締ハ其組合營業者ニ於テ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クベシ

但シ當選人其任ニ堪ヘズト認ムルキハ認可ノ後ト雖モ改撰セシムルコトアルベシ

第十一條 取締ハ滿ニ夕年毎ニ改撰スルモノトス但シ再撰スルモ妨グナシ

第十二條 取締ハ組合營業者ノ名簿二通ヲ作り一通ハ備置キ一通ハ所轄警察署又ハ分署ニ差出スベシ

第十三條 名簿ハ住所(本籍寄留地共)屋號身分職業氏名年齢鑑札番號等ヲ詳記

シ寶印商印(仕切印ノ類)ヲ押捺セシムベシ

第十四條 取締ハ組合營業上ニ係ル諸願伺届書(商品ヲ他管ニ運送シ又ハ他管ヨリ受取リタル届書ヲ除ク)

ニ連署シ所轄警察署又ハ分署ヨリ取締ニ關スル諸達及ヒ贓品ノ品シテ

第十五條 取締上ニ關スル費用ハ其組合營業者ノ協議ヲ以テ支出ス

第十六條 古物商ハ左ノ簿冊ヲ製シ置クベシ

但品觸扣帳ヲ除ノ外新調ノ都度所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クベシ

第一 物品買入明細帳

此帳簿ハ物品買入又ハ讓受ケタルト第一號書式ニ準シ記載スベシ

但條例第四條但書及第六條ノ場合ニ於テ警察官吏ノ認可若クハ許可ヲ得タルトハ其檢印ヲ受ケ置クベシ第二項第三項モ亦同シ

第二 物品讓渡明細帳

此帳簿ハ物品ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルト第二號書式ニ準シ記載スベシ

第三 物品預帳

此帳簿ハ物品ヲ預リタルト第三號書式ニ準シ記載スベシ

第四 品觸控帳

此帳簿ハ品觸到達シタル年月日時及其ノ全文ヲ記載スベシ

第十七條 商品ヲ他府縣下ニ運送セントスルトハ差立ノ日ヨリ三日以前又他府縣下ヨリ受ケ取リタルトハ到着ノ日ヨリ三日以内ニ第

四號書式ニ依リ所轄警察署又ハ分署へ届出ベシ

第十八條 他府縣へ運送スル荷物ニハ差出人及請取人ノ住所氏名并

ニ其物品ノ類名(古管荷古道具荷等ノ類)ヲ標記スベシ

第十九條 此規則ニ違背シタルモノハ第七條第九條第十條第十一條

第十二條第十五條ヲ除クノ外刑法第四百廿七條第八項ニ據ツテ處

分ス(明治二十年十一月縣令第百十九號ヲ以テ本條右ノ如ク更正セラル)

●第四編 第四章 第二款古物商取締條例細則

第壹號 物品讓受明細帳書式

書式中括弧ヲ施シタルモノハ特別取締ニ附セラレタルキノ式ナリ第貳號書式モ之ニ同シ

番號	品目形狀	箇數	買入代價 又ハ交換 品	年月日(時)	賣主 讓主 住所氏名(年齡)
何號	何色縮緬男 袴羽織 紋何々何々 所裏何色絹 袖口何	何枚	何圓	何年何月何日	何國何區何町何番地 何 某

第貳號 物品讓渡明細帳書式

證人ヲ要スルモノハ買主讓主ノ次ヘ其住所氏名ヲ記載スベシ

番號	品目形狀	箇數	買入代價 又ハ交換 品	年月日(時)	買主 讓受 住所氏名(年齡)
何號	何色縮緬 男袴羽織	何枚	何圓何錢	何年何月何日	何國何區何町何番地 何 某

第三號 物品預帳書式

條例第八條ノ場合ヲ除クノ外ハ買主讓受主ノ住所氏名等ヲ知リ得タルキハ如此記載スベシ

番號	品目	箇數	預リタル事由	預リタル年月日 辰シタル年月日	預ク主住所氏名
何號	木綿何縮 女單物	何枚	火盜難保 護ノ爲メ	何年何月何日 何年何月何日	何國何區何町何番地 何 某

第四號 他府縣下へ物品ヲ運送シ又ハ他府縣下ヨリ受取タル屆書式

記

一 何々 何箇  
一 何々 何箇

(特別取締ニ付セラレタル期限)  
中ハ物品ノ形狀ヲ詳記スベシ

右ハ何府何縣何町何番地何商何ノ某方ヨリ來ル(何月)何日何便ヲ以テ到著候間此段御届仕候也 住所身分職業

年月日

氏名 印

●第四編 第四章 第二款古物商取締條例細則

何警察署(分署)

御 中

◎第三款 質屋取締條例

◎太政官第九號

明治十七年三月二十五日(布告)

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス  
右 奉 勅旨布告候事

(別紙) ◎質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クベシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クベシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スベシ

但證人ヲ要スルルハ質入主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クベシ  
第四條 身元詳ナラザル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ズ

但シ身元詳ナル者證人タル時ハ此限ニアラズ

第五條 十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ズ

但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タル時ハ此限リニアラズ  
官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ベキ  
コトヲ證明スル證人二名以上アルニ非ザレバ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ズ

前二條ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコトナク  
質物ヲ取戻サルハコトアルベシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキハ直チニ

所轄警察署ニ届出ベシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身分柄不相應ト認マル物品ヲ持來ル者アルルハ直チニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スベシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルルキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スベシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スベシ

第十條 贓物ノ品觸アルキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スベシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ届出ベシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スベシ若シ亡失シタルキハ直チニ所轄警察署ニ届出ベシ

第十三條 警察官ハ何時タリ共質屋ノ店舗ニ臨ミ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルベシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二回以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ  
第十七條 營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責任ズベシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府知事ヲ除ク縣令ニ於テ便宜取設ク内務卿ニ届出ベシ

○第四款 質屋取締條例細則  
○静岡縣甲第四十號 明治十七年四月二十五日(公布)

質屋取締條例第十八條ニ依リ細則別紙之通り相定メ候條此旨布達候事  
但取締副取締ハ此規則發布ノ日ヨリ二十日以内ニ撰定シ認可ヲ

受ケ從前該業ヲ營ムモノハ三十日以内ニ願出免許ヲ受クベシ  
(別紙) ○質屋取締條例細則

第一條 質屋取締條例第一條ニヨリ營業ヲ爲ス者ハ住所(本籍寄留)身分  
氏名年齢等ヲ詳記セル願書ニ取締連署レシユ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察  
署又ハ分署ヲ經由シ願出免許鑑札ヲ受クベシ

第二條 轉居改姓名又ハ鑑札遺毀シタルキハ其事由ヲ詳記シ前條ノ  
手續ヲ以テ更ラニ鑑札ヲ受クベシ

第三條 廢業又ハ轉業ノ節ハ第一條ノ手續ニヨリ鑑札ヲ返納スベシ

第四條 鑑札ハ買賣讓與貸借スルヲ許サズ

第五條 營業者ハ各警察署又ハ分署ノ所轄内ヲ一組合トナシ毎組取  
締一名副取締一名乃至數名ヲ置クモノトス

第六條 取締ハ其組合營業者ニ於テ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認  
可ヲ受クベシ

但シ當選人其任ニ堪ヘズト認めタルトキハ認可ノ後ト雖モ改撰セ

シムルコトアルベシ

第七條 取締ハ滿二ヶ年毎ニ改撰スルモノトス

但再撰スルモ妨グナシ

第八條 取締ハ組合營業者ノ名簿ヲ作り備置クベシ

第九條 營業者ノ名簿ハ住所(本籍寄留)屋號身分氏名年齢鑑札番號等ヲ

詳記シ實印商業印(仕切判)ヲ押捺セシムベシ

第十條 營業者ハ前條ノ印形ヲ押捺シタル印鑑(美濃紙ニツ切)ヲ製シ住所  
氏名ヲ記シ所轄警察署又ハ分署へ差出スベシ

第十一條 取締ハ組合營業上ニ係ル諸願伺届(流賃物賣拂品)書ニ連署シ所  
轄警察署又ハ分署ヨリ取締上ニ關スル諸達及品觸等ヲ受クルキハ  
速カニ之ヲ組合中ニ送達シ受印ヲ取り置クベシ

第十二條 營業者ハ左ノ雛形ニ倣ヒ看板ヲ調製シ所轄警察署又ハ分  
署ノ捺印ヲ受ケ店頭ニ掲ク置クベシ  
但シ廢業ノ節ハ消印ヲ乞フベシ



横 九 寸

警第何號	住所
□ 質屋營業	屋號
	氏名
	木質 適宜

警察署又ハ分署烙印

第十三條 營業者ハ左ニ列記スル簿冊ヲ調製スベシ

但シ質物臺帳ハ新調ノ都度所轄警察署又ハ分署ノ捺印ヲ受クベシ

- 第一 質物臺帳 此帳簿ハ第一號書式ニ準シ記載スベシ
- 第二 流質物賣拂帳 此帳簿ハ第二號書式ニ準シ記載スベシ
- 第三 物品預リ帳 此帳簿ハ第三號書式ニ準シ記載スベシ
- 第四 品觸寫帳 此帳簿ハ品觸到達シタル年月日時及其全文ヲ附記スベシ

第十四條 條例第八條ニ依リ所轄警察署ニ差出ス可キ物品目錄ハ第

四號書式ニ照據スベシ

第十五條 取締上ニ關スル費用ハ其組合營業者ノ協議ヲ以テ支出スルモノトス

第十六條 營業者ト質入主トノ規約及流質期限ハ其取締ヨリ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ベシ

第十七條 此規則ニ違背シタル者ハ第一條第三條第五條第六條第七條第八條第九條第十四條第十五條ヲ除クノ外刑法第四百二十七條

第八項ニ據リ處分ス(明治二十年十一月縣令第百十八號ヲ以テ本條右ノ如ク改正セラレタリ)

(第一號) 質物臺帳書式(明治十七年甲第四十六號ヲ以テ第一號ヨリ第三號書式改正セラル)

- 一 番號ハ一年毎ニ號數ヲ止メ翌年ヨリ新タニ始ムベシ(書式中〇ノ印ヲ附シタルハ朱書ナリ)
- 一 入替品ハ朱書ノ如ク其物品及年月日ヲ記載シ品目ハ朱ニテ塗抹スベシ
- 一 受戻シタルモノ及流質賣拂ヒタルモノハ朱書ノ如ク記入シ番

號品目ハ米ニシテ塗抹スベシ

何國何區何村何番地

質入主

何ノ某

(證人ヲ要シタルハ其住所氏名ヲ列記シ本人及證人ノ實印ヲ押捺セシムベシ)

何年月日質入

第何號

一何色何々紋付男小袖

但紋丸ノ中ニ何々何々所裏何色袖口何々

代金何圓何十錢也

利子何々何ヶ月限約定

第何號

一何色何々女小袖

但紋何一ヶ所胸裏何何袖口何々

貸金何圓也同上

第何號

一金側何々懷中時計

何枚

何年何日入換

一何縞男羽織

壹枚

但胸裏何々

何年何月日受戻シ

何箇

但器械何々何國製番號何號附屬品何々

貸金何拾圓也

第何號

一黑塗何寸重箱

但米塗蓋金箱ニテ何々ノ紋付キ又ハ金梨子地何々ノ蒔繪アリ

貸金何圓也

何箇

(第二號) 流質物賣拂帳書式

何國何區何村何番地

買主又ハ讓受主 何ノ某

何年月日賣拂

何年第何號

(質物臺帳ノ番號ヲ付スベシ)

一何色何々紋付男小袖

何枚

代金何拾圓也

何年第何百號(同上)

一黑塗何寸重箱

何箇

價金何圓何十錢也

幾品

(第三號) 物品預リ帳書式

何國何郡何町何番地

預ク主 何ノ 某

何年月日

一何色羽二重紋付小袖

何 枚

一黒塗八寸重箱

何 箇

一何々

何 箇

幾品

右火災盜難ノ保護又ハ何々ノ爲メニ預ル

(第四號) 流質物賣拂品目錄屆書式

記

一御召縮緬何編男袴

何 枚

但シ裏何色絹

一黒羽二重何紋付女羽織

何 枚

但シ裏何々

一何々

何 品

(徽號等著シキ目票アルモノハ記載スベシ)

右ハ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄ノ入質品ノ内前顯ノ通流質ニ相成候處品觸ニ類似ノ物品無之ニ付來何日ヨリ賣拂候間此段御届申上候也

住所

明治何年何月何日

業名 氏名 印

何警察署又ハ分署

御中

○第五款 富士川物貨運搬營業取締規則

○静岡縣甲第四百四拾三號

明治十五年十二月十五日(公布)

富士川物貨運搬營業取締規則別紙之通相定メ來ル明治十六年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

(別紙) ○富士川物貨運搬營業取締規則

第一條 富士川ニ據テ物貨運搬ノ營業ヲ爲サント欲スルモノハ營業規則保險受負方法ヲ設ケ縣廳ノ允可ヲ受クベシ

第二條 允可ヲ得タル營業者ハ保險受負準備抵當トシテ公債證書地券ノ類ヲ縣廳ヘ納メ置ク可シ

第三條 營業者ハ發船毎ニ其積荷ハ送り券(運輸依頼主及受働者荷受主並積數實數等ヲ詳記シタル者) 乘客ハ證券(族籍姓名上陸地名等ヲ記シタルモノ) 船頭ニ付シ(上リ船ハ静岡縣庵原郡岩淵村下リ船ハ山梨縣南巨摩郡陸合村) 改船所ニ出シ

積荷數量客人員ノ檢査ヲ受ケシムベシ又積荷送券乘客證券ニ記載スル箇條ハ豫テ帳簿ヲ製シ詳細記載シ置クベシ

第四條 上下通船共積荷ノ多寡ニ係ラズ一經過毎ニ營業者ヨリ賦金拾錢宛其改船所ヘ上納スベシ

但賦金納付ハ必通船券ヲ以テスベシ

第五條 前項通船券ハ豫テ見積ヲ以テ代リ金上納其所轄郡役所ヨリ請取置クベシ

第六條 上下通船運賃ノ定額ハ改定ノ都度營業者ヨリ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届ケ出ベシ

第七條 營業者ハ毎月通船ノ艘數輸出入物貨個數乘客人員等ノ總計表ヲ製シ翌月十日迄ニ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ベシ

第八條 營業者所有及所屬船艇ノ數並船子人名等豫テ所轄郡役所ヘ届出ツベシ

但シ増減ノ都度同斷タルベシ

第九條 難破船アルキハ乘客ハ勿論荷物ノ損傷ヲ防キ船方中相互ニ救助スヘシ

但乘客ノ死傷荷物ノ損亡等アルキハ船頭ヨリ取敢ズ最寄警察署分署支番所ニテモ妨ケナシ 改船所ヘ届出猶其都度營業者ヨリ實況ヲ詳記シ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ベシ

第十條 乘込人員及積荷ノ定量ハ左ノ通りタルベシ

- 一 下リ船一艘 人員十五人 但 船頭水主及乗客七歳未満ノ小兒ハ算入セズ
- 一 右同斷 荷物廿四 但 壹箇十五貫目トシ總實數三百六十貫目

但旅客荷物トシテ積載スルルハ荷物一箇六分チ一人ノ割合トシ  
 本條ノ定量ヨリ超過スカベテス乗客ノ荷物凡ソ三貫目迄ヲ手荷  
 物トシ船頭荷物ハ食料並ニ船中用其他一人分五貫目迄ヲ手荷物  
 トシ其余ハ貫數ニ應ジ定量荷物ノ數ニ算入スベシ

- 一 上リ船一艘食鹽四十八俵 但 小俵六貫目總實數二百八十八貫目
- 一 右同斷 諸物貨廿四 個 但 壹箇拾貳貫目總實數二百八十貫目

但食鹽ト諸物貨トヲ積載スルルハ食鹽二俵ヲ荷物一箇ノ割合ト  
 シ船頭手荷物ハ前ニ同ジ

第十一條 前項定量ニ充タザルニ發船スルカ或ハ中途ニ陸上ダテ爲  
 シ積荷尙ホ定量ニ及バズト雖モ營業者ノ出張所アル沿川各地ヨリ  
 第三條ノ手續ヲ以テ證券或ハ送券ヲ渡シタル上ナラザレバ旅客ヲ

乗船セシメ又ハ荷物ヲ積入ル可ラズ

第十二條 船子ハ一艘ニ付強壯ノ者四人以上トシ幼少未熟ノ者ヲ以

テ定員ニ充テ又ハ夜中船ヲ通ス可ラズ

第十三條 船艇破損ノ箇所ハ常ニ修繕ヲ加ヘ又ハ船中必要ノ器械ヲ  
 欠クベカラズ

第十四條 此規則第四條第十條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下  
 ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處シ尙ホ行  
 政上ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルベシ

同規則第三條第十一條第十二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以  
 下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處シ尙  
 ホ行政上ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルベシ

同規則第六條第七條第八條ニ違背シタルモノハ五錢以上五十錢以  
 下ノ科料ニ處ス(明治二十年十二月縣令第百二十五號ヲ以テ本條右ノ如ク更ニ改正セラル)

○第六款 新聞紙雜誌雜報類轉賣營業ニ關スル處分方

○縣令第二號

明治十九年七月廿九日(静岡縣公布)

新聞紙雜紙雜報類ノ發行所發賣所發賣人ニアラズシテ其轉賣營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名及ビ其新聞紙ノ種類ヲ記シ開業三日前其族籍住所氏名ヲ轉換シ又ハ新聞紙ノ種類ヲ増減シ及廢シヨル時ハ五日以内ニ所屬警察署又ハ分署ヲ經由シ(静岡警察署内ニ係ルモノハ警察本部)届出ベシ若シ之ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス(明治廿九年九月縣令第八十五號ヲ以テ本則右ノ如ク改正)

(以上)

○第七款 農工商同業組合規則

○静岡縣甲第二百二十八號

明治十七年二月十七日(公布)

農工商同業組合規則別紙之通相定候條向後組合ヲ設ケントスルキハ此規則ニ基キ當廳ノ認可ヲ受クベシ此旨布達候事

○農工商同業組合規則

第一條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害

ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスルキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り當廳ノ認可ヲ受可シ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲スベシ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲グベキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及ビ組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及ビ事務所ノ位置

第三項 目的及ビ方法

第四項 役員ノ撰擧法及ビ權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及ビ賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要ナル事項

第四條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スベシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルガ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムベキ事情アルルハ當廳ニ申出其認定ヲ受クベシ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヲ得ズ

第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年四月當廳へ報告スベシ

第七條 規約ヲ改正スルルハ更ニ認可ヲ受クベシ

第八條 分立又ハ合併スルルハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ受クベシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルルハ當廳ノ認可ヲ受クベシ

但聯合他府縣ニ涉ルルハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ受クベシ

第十條 此規則第四條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ

處シ又ハ廿錢以上一圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス(明治廿年十月縣令第九十一號ヲ以テ本條追加セラル)

第五章 流入紙製造營業

第一款 流入紙製造取締規則

勅令第三十六號 明治二十年七月廿三日(布告)

○流入紙製造取締規則

第一條 文字畫紋ヲ流入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添エ管轄廳(東京府ハニ届出ベシ)違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條 紙幣兌換銀行券公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ流入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ズ違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

(參看) ○第二款 文字畫紋流入届出方

○大藏省令第十二號 明治二十年八月十六日(公布)

●第四編 第五章 第一款 澆入紙製造取締規則

二百四十四

文字畫紋ヲ澆入レタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品ニ葉ヲ添エ  
左ノ離形ニ據リ届書ニ通テ管轄廳ニ差出スベシ管轄廳又ハ警視廳  
ハ一通ヲ留メ置キ一通ヲ當省ヘ遞達スルモノトス

離形 (用紙半紙) 澆入紙製造届

一何々澆入紙

右製造仕候間現品相添此段御届仕候也

年月日

貫籍

何ノ某印

應府縣長官宛

(參看) ○第三款 澆入紙届出方ニ付静岡縣公布

○縣令第七十一號

明治二十年八月三十日

文字畫紋澆入紙製造取締之義今般勅令第三十六號及大藏省令第十  
二號ヲ以テ公布相成候ニ付テハ當廳ニ差出スベキ届書ハ所轄警察  
署又ハ分署ヲ經由スベシ

●第五編 雜則罰令

●第一章 請願規則及地券下付手續

○第一款 請願規則

○太政官第五十八號

明治十五年十二月十二日(布告)

請願規則左之通制定ス

○請願規則

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ  
左ノ條規ニ依ルベシ

第二條 郡區長及戶長職務内ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スベシ郡區  
長戶長ノ指令ニ服セザル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指  
令ニ服セザル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セザル者ハ太  
政官ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願ス  
ベシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セザル者ハ主務卿ニ請願シ主  
務卿ノ指令ニ服セザル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

●第五編 第一章 第一款 請願規則

二百四十五



各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スベシ其指令ニ服セザルモノハ  
太政官ニ請願スルコトヲ得

第三條 凡請願スル者ハ書面ヲ以テスベシ口陳スルコトヲ許サズ官  
署ノ求メニ應ジテ開陳スルハ此限リニ非ラズ

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願  
スルモノヲ除ク外住所戸長ノ奥印ヲ受クベシ其連名ヲ以テ請願ス  
ル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人  
アルキハ其由ヲ肩書スベシ戸長ノ奥印ヲ受ルハ前ノ例ニ同ジ

第五條 府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ズ  
但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ非ラズ

第六條 請願書ヲ上呈スルコトハ代人ヲ以テスルコトヲ許サズ數人連  
名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ミ之ニ委託ス可シ

第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得  
第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添

フベシ

第九條 諸願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非ザルトキハ直ニ  
之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スベシ

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セ  
シムベシ

第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ラニ請願スルコトヲ得ズ又裁  
判所ニ訴フルコトヲ得ズ

第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ズ  
第十三條 凡事ノ建白ニ屬スベキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ  
請願スト雖モ受理セズ

第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セズ

第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ズ及第三條第四條第五條第六條  
第八條第十一條ノ規程ニ循ハザル者ハ受理セズ

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ

外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セズ

第十七條 條規ニ違ヒ受理セラレザルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラザル者ヲ除ク外各人均シク罪ヲ論ズ其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ズ 其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サズ犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス  
右 奉 勅旨布告候事

○第二款 地方稅納稅者心得

○縣令第二十五號

明治二十一年三月三十一日(静岡縣公布)

明治二十一年度地方稅納稅者心得別紙之通相定ム

○地方稅納稅者心得

第一條 明治二十一年度前半期ハ四月ヨリ九月迄後半期ハ十月ヨリ二十二年三月迄トス

第二條 新ニ營業稅雜稅目中ノ營業營業ニ非ザル烟火及自用ノ水車乘馬自轉車トモヲ爲ントスル者ハ左ノ各項ニ依リ(警察署ノ認可ヲ受クベキ者ハ其許可ヲ受ケタル后)戸長ヲ經テ郡長ニ届出ベシ但左ノ各項届出后増減若クハ異動ヲ生ズルキハ其時々届出ベシ  
第一商工業會社ハ其營業ノ性質支店出張所ノ有無資本金高  
第二宿屋兩替屋爲換店職工飲食店ハ其營業ノ性質卸賣商仲買商小賣商雜商ハ其營業ノ性質及商品ノ種類種類數多ニシテ悉ク記シ難キ者ハ其中ノ重ナルモノヲ摘記スルヲ得  
第三紺屋ハ瓶數  
第四湯屋ハ二階或ハ別座數ノ有無

第五條 遊藝人ハ床場持ノ有無

第六條 遊藝師匠、遊藝稼人、俳優、相撲、相撲間藝妓ハ其藝名

(但盲人ノ遊藝師匠、遊藝稼人ヲナス者モ本項ニ據ルベシ)

第七條 職工、理髮人、床場持ニアラザルモノ俳優、藝妓、漁業(釣、筏、網、鵜、遣、ヒ、鰯、採、藻、者)、心太草ハ其生年月日(但シ年齢ノ區別ニ依リ免稅ニ屬

スルモノモ本項ニ據ルベシ)

第八條 水車ハ碓、碓、臼ノ基礎、綿打、綿繰器械、烟草刻器械ノ臺數、水車場

位置、自用渡世ノ別

第九條 乘馬ハ頭數、自用渡世ノ別、屠畜ハ屠場位置

第十條 ハ巾間數、箇數、位置及ヒ設置期限

第十一條 演劇人、寄席ハ座名、位置、遊技場、遊覽所、興行ハ營業性質及位置

第十二條 烟火ハ其事由場所、晝夜ノ別、日數

第十三條 自轉車ハ其輛數

第十四條 市場ハ頭取人名、營業種類、開場位置及ヒ開市日限

第三條

火藥類、銃砲、獸肉、卸小賣商、質屋、古着、古金銀、古道具類商、湯屋、遊

藝稼人、相撲、行司、俳優、相撲間藝妓、市場、日々開市スルモノヲ除ク、演劇興

行、遊覽所、船車、自轉車ヲ除ク、屠畜、烟火、筏ノ外、營業稅雜種稅ヲ賦課ス

ルモノハ郡役所ヨリ鑑札ヲ下付ス

第四條

商店ヲ設クル者ニシテ本人若クハ家族雇人ヲシテ行商セン

トスル時ハ警察署ヨリ行商鑑札ヲ受クルモノヲ除ク、戶長ヲ經テ郡

長ニ申出行商鑑札ヲ受クベシ

第五條

商店若クハ居宅外ニ在テ營業ヲ爲スモノハ外出營業中必ズ

鑑札ヲ携帯スベシ

第六條

鑑札ハ賣買、貸借又ハ讓與、讓受ヲ許サズ

第七條

鑑札ハ改名、代換、轉居、轉業ハ書換ヲ毀損、紛失、遺失、燒失、流失ハ

再渡ヲ戶長ヲ經テ郡長ニ申出ベシ

第八條

營業稅雜種稅中左ニ記載シタル者ハ別紙、雛形ニ倣ヒ標札ヲ

自費製造シ必ラメ之ヲ店頭ヘ掲出スベシ

商業會社 工業會社 陸運會社 陸運店  
 回漕店 卸賣商 仲買商 小賣商  
 雜商 兩替屋 爲換店 溫泉宿  
 床場持理人 水車(自用トモ) 紺屋 岡染西洋染屋  
 市場

第九條 新タニ漁業ヲ爲ス町村又ハ全町村廢業スルキハ漁船長艘數  
 及海湖川池沼ノ區別漁業人員ヲ取調四隣町村同業者三名以上ノ保  
 證ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ベシ

但シ新規漁業届出ノ后該年度内船數ニ増加ヲ生ズルモノハ其時  
 々届出ベシ

第十條 卸賣商、小賣商、雜商、古着商、古金、古道具類商ニシテ明治二十年  
 一月ヨリ十二月マテ土地ノ等級ニ拘ハラズ賣上金高一万圓以上及  
 ビ四等地以下五千圓以上ニ及ビタルモノハ其金高取調同業者三名  
 以上ノ保證ヲ受ケ明治二十一年四月八日迄ニ戶長ヲ經テ郡長ニ届

出可シ

第十一條 市場演劇興行遊覽所ハ其營業ノ日數ヲ取調(演劇興行ハ場  
 代木戶錢ヲ遊覽所ハ見料ヲ記載スベシ)毎開場ノ前日迄ニ戶長ニ届  
 出ベシ

第十二條 屠畜ハ其屠殺スベキ頭數牘牛ヲ區別スベシヲ帳簿ニ登記  
 シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ屠殺ノ當日戶長ハ差出シ檢印  
 ヲ受クベシ

第十三條 年稅アル諸營業者(船車水車乘馬漁業採藻ハ除ク)ノ全年期  
 若クハ月稅アル營業者ノ全月休業セントスルキハ同業者三名以上  
 ノ保證ヲ受ケ戶長ヲ經テ郡長ニ届出ベシ

但シ本條ハ場合ニ於テ第八條ノ諸營業者ハ標札ハ休業ノ期限ヲ  
 記シタル附箋ヲ爲シ掲出シ置クベシ

第十四條 營業稅雜種稅ノ賦課ヲ受クルモノニシテ他町村へ轉住ヲ  
 爲サントスルキハ三日以前ニ又ハ他町村ヨリ轉住シタル者ハ翌日

迄ニ其地ノ戶長ヲ經テ郡長ニ届出ベシ

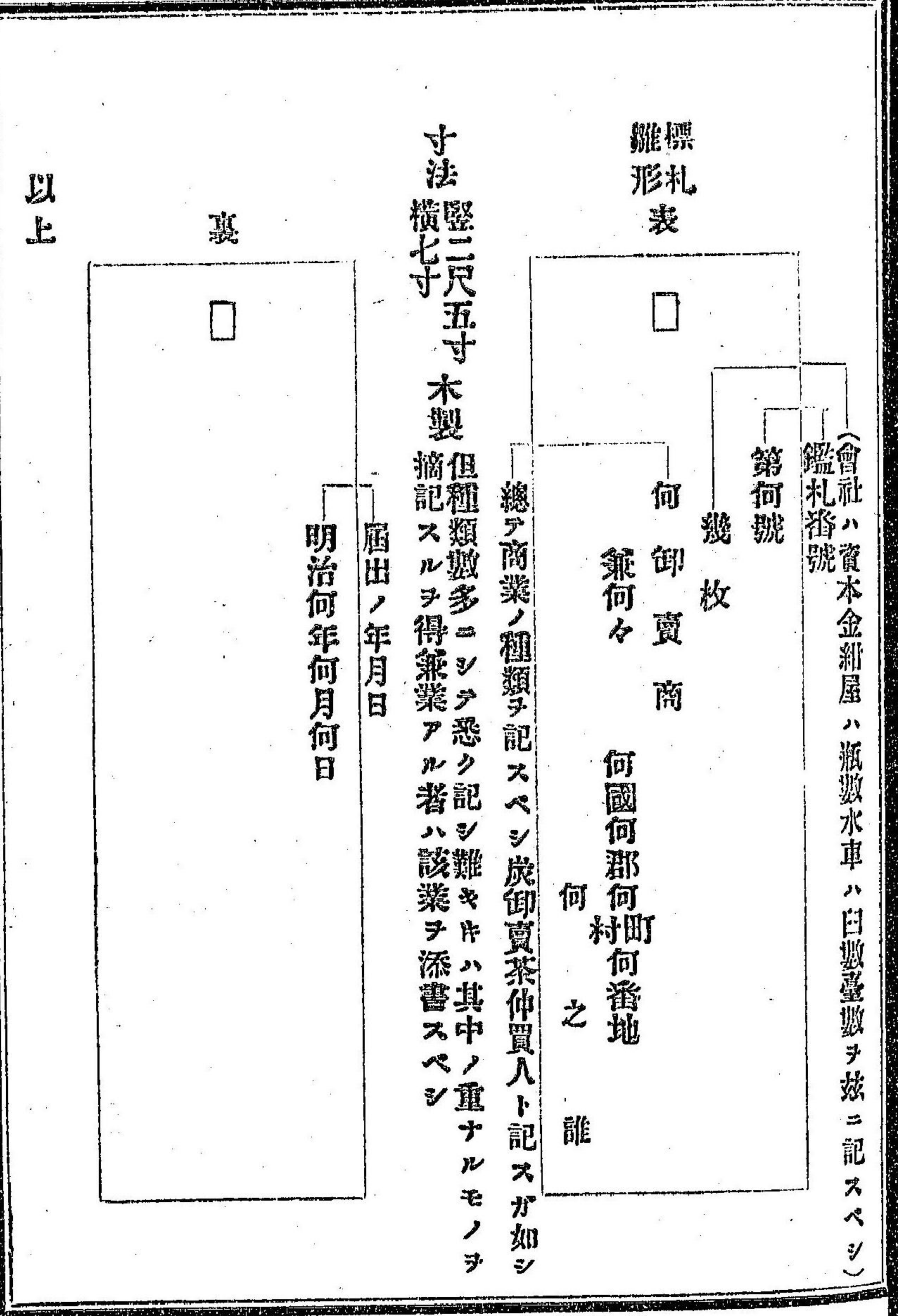
第十五條 廢業セントスル者ハ戶長ヲ經テ郡長ニ届出鑑札アルモノハ其節之ヲ返納スベシ

第十六條 郡長若シハ戶長ニ於テ課稅上必要ト認ムル時ハ營業ニ關スル諸帳簿ヲ檢査スルヲアルベシ

第十七條 營業稅雜種稅納期后新規開業并ニ(年月)稅納期前廢業及他町村へ轉住スベキモノ年稅ハ其半期分月稅ハ其月分日稅ハ其日迄ノ分ヲ即納スベシ

第十八條 戶數割稅納期后新規分家ヲ爲シ及他府縣ヨリ轉住シタル者又ハ納期前他町村へ轉住スベキ者ハ其半期分ノ稅ヲ即納ス可シ

第十九條 第二條第九條第十條第十一條第十二條第十四條ニ依リ届出デズ又ハ詐僞ノ届出ヲ爲シタル者及ビ第四條ニ依リ鑑札ヲ受ケ又ハ第五條第六條ニ違犯シタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス



◎第三款 地租 條例

◎太政官第七號

明治十七年三月(布告)

地租條例別冊之通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スル者ハ廢止ス但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通りタルベシ

◎地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ地券ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ由リテ増減セズ

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田畑郡村宅地市街宅地鹽田鑛泉地

第二類 池沼山林原野雜種地

第一類中又ハ第二類中各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩川欠押堀石砂入川成海成湖水成等ノ

如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地鄉村社地墳墓地用惡水路溜池堤塘井溝及公衆ノ

用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト

爲シ三十步ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス

但シ市街宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合

ノ十分一ヲ勺ト爲ス

第六條 開墾錄下年期明荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ムルトキ又ハ

地目變換スルハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非ザレバ修正セズ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スベシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地

ノ情況ニ應ジ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ベシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルモハ地方廳ノ許可ヲ受クベシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ地券記名者ヨリ徵收ス但質取主ニ於テ之ヲ納ベシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地鄉村社地墳墓地ト爲ストキハ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路溜池堤塘井溝公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキ其地租ハ其地工事着手ノ月分ヨリ日割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 開墾地ハ免租年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲ントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クベシ開墾地代ハ十五年以内ノ免租年期ヲ許可ス

但シ年期中ハ原價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十七條 免租年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變ズルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ベシ此場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ免租年期ヲ許可スルコトアルベシ

第十八條 免租年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラザル者ハ更ニ十五年以内免租年期ヲ許可ス

第十九條 免租年期明ノトキハ其地價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ違ヒズ他ノ地目ニ變ズル者ハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正ス  
第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十一條 免租年期明ニ至リ其地ノ現況<sup>ケンキョウケンチ</sup>原地價ニ復シ<sup>フク</sup>難キモノハ十年以内七割以下ノ低價<sup>ライカ</sup>年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス  
第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ビ免租年期明ニ至リ原地目ニ復セズ他ノ地目ニ變ズルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀<sup>ケイツウ</sup>ヲ存スルモノハ更ニ十年以内免租<sup>タイチキ</sup>年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依テ處分ス

第二十四條 川成海成湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租<sup>タイチキ</sup>年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セズ他ノ地目ニ變ゼザルモノハ川海湖ニ歸スルモノトシ其地券<sup>シケン</sup>ヲ還納<sup>エンノウ</sup>セシム

第二十五條 土地<sup>トチ</sup>ヲ欺隱<sup>キイン</sup>シ地租ヲ逋脱<sup>ホダツ</sup>スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱<sup>キイン</sup>年間ノ地租ヲ追徵<sup>ツイチョウ</sup>ス

但シ地租改正ノ初年以前ニ溯<sup>サカ</sup>ルコトヲ得ズ

第二十六條 第十一條第十六條ニ違犯<sup>イ</sup>スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其免租地ヲ有租地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可スベキモノハ現地目ニ依リ地租ヲ定メ其地租<sup>ソコ</sup>増額<sup>ゾウガク</sup>ヲ追徵<sup>ツイチョウ</sup>ス

但シ地租改正ノ以前ニ溯<sup>サカ</sup>ルコトヲ得ズ  
第二十七條 第十條第十七條ニ違犯スル者ハ壹圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラザルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス  
但シ其追徵スベキ地租ハ尙ホ之ヲ納メシム

◎第四款 所得稅法



勅令第五號

明治二十年三月十九日(布告)

所得 稅法

第一條 凡人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生ズル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムベシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スル者トス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スベシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子營業ニアラザル貸金預金ノ利子株式ノ利益配當金官私ヨリ受クル俸給手當金年金恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生ズルモノハ其種類ニ應ジ收入金若クハ收入物品代價中ヨリ國稅地方稅區町村費備荒儲蓄金製造品ノ原質物代價販賣品ノ原價種代肥料營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料修繕料雇人給料負債ノ利子及雜費ヲ除

キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スベシ

但シ所得收入以來未ダ三年ニ滿タザルモノハ月額平均其得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スベシ

第三條 左ニ掲グルモノハ所得稅ヲ課セズ

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費傷痕疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セザル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級

稅率

第一等	所得金高 三萬圓以上	百分ノ三
第二等	所得金高 二萬圓以上	百分ノ二半
第三等	所得金高 壹萬圓以上	百分ノ二
第四等	所得金高 千圓 以上	百分ノ一半

第五等 所得金高 三百圓以上 百分ノ一

但シ所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セズ

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムベシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムベキ所得アルモノハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日迄ニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ベシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム調査委員定數ハ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フベシ  
調査委員及補缺員ニ選マレタル者ハ正當ノ事由無クシテ之ヲ辭スルコトヲ得ズ

第八條 調査委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人ハ二十五歲以上ノ男子ニシテ其

郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル

但シ府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選舉人タルコトヲ得ズ

同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ズ

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラザル町村選舉人ノ員數

ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム

但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラザル選舉人ヲ定ムルコトヲ得、町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉スベシ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス但シ第一回ノ改撰ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ届書ニ據リ所得金高下調書ヲ製シ其届

書ト共ニ調査委員會ニ付スベシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過テ其届出ヲ爲ササル者アルハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スベシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互撰ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半数出席スルニアラザレハ會議ヲ開クコトヲ得ズ會議ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルハ會長ノ可否スル所ニ依ル

但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ズ  
第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級全額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スベシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知

事ニ具狀シ指揮ヲ請フベシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルハ其違ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルベキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得

但此場合ニ於ケルモ其税金ハ違ヲ受ケタル金額ニ從ヒテ之ヲ納ムベシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スベシ

但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スベシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スベカラズ

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審查シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スベシ但シ既納ノ稅金ハ之ヲ還付セズ

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其逃稅金高三倍ノ罰金ニ處ス

但自首スル者ハ其稅金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハズ

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲ササル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第二十七條 此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ

第二十八條 此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但シ北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給手當金、年金、及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セズ

附 則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限リ七月三十一日マデニ差出スベシ

◎第五款 所得稅法施行細則

明治二十年五月五日(公布)

◎大藏省令第八號

◎所得稅法施行細則

第一條 戶主ニ所得ヲクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納稅スベキモノトス

第二條 稅法第二條第三條ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生ズベキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應ジ前三箇年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルベキモノトス

第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價額ヲ以テ代金ヲ算出スベシ

第四條 稅法第六條ノ屆書ハ別紙第一號書式ニ依ルベシ

第五條 左ニ掲タル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此稅法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨ゼシムベシ

一 此稅法ヲ施行セザル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生ズル所得金一箇年 三百圓以上ヲ收入スル者

一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此稅法ヲ施行セザル地ニ寄留スル納稅者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ別紙第二號書式ニ依リ其所得ノ收入スル各地ノ郡區長ニ届出ベシ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受ルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付スベシ

但其届出高ニ對シ意見アルルハ別ニ其意見ヲ附スベシ

第八條 納稅者他ノ郡區役所所轄内ニ轉居セントスルルル及ビ轉居シタルルハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ベシ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受ケルトキハ直ニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スベシ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノ、所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スベシ

第十二條 調査委員會及調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スル事ヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得メト恩料スル事故アルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スベシ  
第十五條 所得稅ノ等級金額ハ別紙第三號書式ニ依リ毎年八月十日迄ニ之ヲ達スベシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ部割シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルヲ得

第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定スベシ

第十八條 調査委員招集ニ應ゼザルカ又ハ會員過半数出席セズ若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マデニ調査ヲ了セザルハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フベシ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一

圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

本年限リ第十一條ノ公告ハ九月第十五條ノ達ハ十一月之ヲ爲スベシ  
(書式ヲ略ス)

◎第六款 地券下附書換手續

◎大藏省令第一號

明治二十年一月十七日(公布)

法律第一號登記法第三十九條ニ基キ地券下附書換手續及ヒ手数料左ノ通り相定ム

第一條 地券下附書換ニ係ル事務ハ郡區役所ニ於テ之ヲ取扱フベシ  
第二條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者ヨリ地券下附又ハ地券書換ヲ郡區役所ヘ願出ベシ

- 土地所有ノ移轉
- 荒地免租年期明
- 開墾鐵下年期明
- 地目變換
- 免租地ノ有租地成
- 有租地ノ免租地成
- 荒地免租
- 開墾
- 合併
- 分裂
- 地券ノ水火盜難ニ罹リタルモノ
- 地券面反別地價地租ニ異

動シ生シタルモノ所有者姓名ノ變更シタルモノ  
郡區長ハ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ遅クモ五日以内ニ地券ノ下  
附又ハ書換ヲ爲スベシ

第三條 地券ノ下附又ハ書換ヲ願フ者ハ願書ニ戸長ノ與印ヲ受クベシ

但登記法ニ據リ登記ヲ經タル者ハ登記濟ノ證書ヲ戸長ニ示スベシ

第四條 戸長役場ナキ地方ニ於テハ地券ノ下附又ハ書換願書ヲ直ニ  
郡區役所ニ差出スベシ

但登記濟ニ係ルモノハ其證書ヲ郡區長ニ示スベシ

第五條 地券ノ下附又ハ書換ヲ願フ者ハ手数料トシテ金三錢ヲ納ムベシ

第六條 手数料ハ戸長役場ニ於テ願書ニ與印ヲ爲スル之ヲ徵收スベシ

但第四條ノ場合ニ於テハ郡區役所ニ於テ願書ヲ受クルル之ヲ徵  
收スベシ

第七條 地券手数料徵收官郡區役所會計主務書記若クハ戸長ハ其徵

收シタル手数料ヲ十日毎ニ取纏メ納付書ヲ添テ所在地ノ金庫(國庫

金取扱所現金仕拂所)へ送付スベシ

但金庫ナキ地方ニ於テハ毎月一回取纏メ納付書ヲ添ヘ便宜ノ金  
庫へ送付スベシ

第八條 前項納付書ハ歲入歲出納規則書式第五號ニ據ル

第九條 戸長ニ於テ第七條ノ手續ヲ爲シタルルハ金庫ノ領收ヲ證シ

タル納付書ニ納人ノ明細内譯書ヲ添テ之ヲ郡區役所ニ送付スベシ

第十條 第二條ノ場合ニ於テハ所有ノ移轉又ハ指令願届濟ノ日ヨリ

六十日以内ニ地券下付又ハ地券書換ヲ願出ベシ若シ其期限ヲ經過  
スルトキハ金壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

◎第七款 車稅規則

◎太政官第二十七號

明治八年二月(布告)

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅則昨  
七年十二月三十一日限リ相廢シ尤モ遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ  
昨七年二月第二十一號布告解漁船並ニ海川小廻シ船等船稅規則ニ照

準收稅ノ車類ノ儀ハ改メテ車稅規則左ノ通り相定メ同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

◎車稅規則

第一則

- 一 馬車二匹立以上 一ヶ年稅 金 三圓
- 一 同 一匹立 一ヶ年稅 金 二圓
- 一 荷積馬車 一ヶ年稅 金 壹圓
- 一 人力車二人乘 一ヶ年稅 金 二圓
- 一 同 一人乘 一ヶ年稅 金 壹圓

(明治十四年九月大藏省乙第三十二號ヲ以テ本則中左ノ如ク追加セラレ)

明治八年第二十七號布告車稅規則中人力車ノ儀横巾内法曲尺二尺未滿ヲ以テ一人乗トシ右以上ヲ以テ二人乗ト相定區別可致此旨相違候事

- 一 牛車 一ヶ年稅 金 一圓

- 一 荷積大七六八車 一ヶ年稅 金 壹圓
- 一 荷積中小車 但大六以下 一ヶ年稅 金 五十錢

(明治十一年七月大藏省乙第三十號ヲ以テ本則中左ノ如ク追加)

車稅規則荷積車ノ儀ハ荷臺全ク荷物ヲ積載スル場所ノ縦横相乗シ尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未滿ヲ以テ中小車大六以下ト心得更ニ區分可致此旨相違候事

第二則

- 一 新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事

但從前所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

- 一 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅候儀ト

可相心得事

第四則

- 一 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分宛區戶長へ取集メ其管



第五編 第一章 第七款車稅規則

二百七十八

轉應へ可相納事

但前半年分ハ其年七月三十一日限り後半年分ハ翌年一月三十一日限り其管轄應へ可相納事

第五則

一 荷積車ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルベキ事

第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍ノ科料タルベキ事 (明治廿一年二月二十四日勅令第七號ヲ以テ左ノ通り附則追加セラレ)

明治八年(二月)第二十七號布告車稅規則ニ附則ヲ追加シ本年七月一日ヨリ施行ス

附則

北海道應管内ニ限り第一則ニ掲グル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七六八車荷積中小車ハ當分ノ内稅金ヲ免除ス

◎第八款船稅規則

◎太政官第十三號

明治十六年四月(布告)

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願

出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フベシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メ

ザルキハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其

地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フベシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生ズルキハ其定繫場

所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フベシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受ケ讓受ケ主ノ

定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フベシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年 金十五圓

第五編 第一章 第八款船稅規則

二百七十九

同 風帆船

百噸ニ付同 金十圓

日本形船積石五十石以上

百石ニ付同 金二圓

同 積石五十石未滿

長<sup>自船梁</sup>三間迄ハ一年金三十錢

解漁船小廻船

積石ニ拘ラス

但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金十五錢ヲ増加ス

遊船

長<sup>自船梁</sup>三間迄ハ一年金五十錢

但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金二十五錢ヲ増加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スベシ

但日本形積石五十石未滿ノ船並ニ解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ

其船ニ釘付スベシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定

繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スベシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ

若クハ定繫場ヲ變換シタルトハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑

札ノ再度若クハ引換ヲ乞フベシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免

稅ノ烙印ヲ乞フベシ

倉庫船、水田ノ耕作ニ用フル船、水災ノ爲メ陸地ニ備置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船、船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船、バツテラ船ノ類

第二章 納稅

第十一條 税金ハ一年ヲ二期ニ別テ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨ

リ徵收スルモノトス其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七

月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スベシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル税金ヲ上

納スベシ

第十三條 船艙ヲ変更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタルトハ次期

ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ税金ヲ納ムベシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上  
其定繫場所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨ゼシムベシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノキハ代人ヲ定メ其  
地方廳ニ届出納稅ヲ辨ゼシムベシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ルキ  
ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨ゼシ  
ムベシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ其脱稅高五倍ノ料料若クハ  
罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ二圓以上五十圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ

犯シタル者及ビ第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケザル者ハ壹圓以上一  
圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ料料ニ處スル者ハ刑法ノ不  
罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ  
但シ刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限リニ在ラズ

以上

第二章 戶籍法及裁判招喚不參遲參

第一款 戶籍法ノ內出<sup>出生</sup>死<sup>去</sup>寄留<sup>者</sup>届出規定

◎內務省令第十九號

明治十九年九月二十八日(公布)

明治四年四月四日布告戶籍法第五則出生死去出入等届出方及ビ明  
治五年(正月)第四號布告第八項寄留者届出方左ノ通相定メ來ル十二  
月一日ヨリ施行ス

第一條 出產<sup>シユツヤシ</sup>アリタルキハ十日以内ニ届出ベシ

第二條 死者<sup>シノビ</sup>アリタルキハ埋葬<sup>ノヒ</sup>以前ニ届出ベシ

第五編 第二章 第一款 戶籍法ノ内出生死去寄留者届出規定 二百八十四

第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルキハ十日以内ニ届出ベシ

第四條 廢戶主廢嫡改名復姓身分變換其他願濟ノ上戶籍ニ登記スベキ事項ハ其許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ベシ

第五條 前數條ニ記載シタル事項ハ戶主ヨリ届出ベシ

戶主未定又ハ不在ナルキハ親族二人以上又ハ其事ニ關係アル者ヨリ本籍地戶長ニ届出ベシ

但本籍地外ニアルトキハ現在地戶長ニ届出且ツ同時ニ本籍地戶長へ届書ヲ發送スベシ

第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戶長ニ届出且ツ同時ニ本籍地戶長へ届書ヲ發送スベシ

第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ

其地戶長ニ届出ベシ

第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルキハ戶主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ベシ

第九條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上一圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○第二款 裁判招喚不參遲參者罰令

○太政官第五號

明治十年一月(布告)

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スルキハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マテニ其裁判所ニ届出ベシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遲參不參スルキハ裁判官ニ於テ直チニ五錢以上十錢以下ノ罰金ヲ科スベシ

第三章 煙草ニ關スル罰令及田圃害蟲豫防

○第一款 煙草稅則ノ内自用者罰令拔萃

○勅令第二十號

明治二十一年四月六日(公布)

煙草稅則 (本則中ヨリ煙草自用者ニ關スル部分ヲ拔萃ス)

第十六條 煙草耕作人ニアラザル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ズ

煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ズ

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ズ

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

○第二款煙草刻器械所持違犯者處分方

○縣令第百十三號 明治二十年十一月十一日(靜岡縣公布)

煙草製造人ノ外自用者ノ依頼ニ應ジ製造スルヲ得ズ又製造人ニアラズシテ煙草刻器械ヲ所持スルモノハ其種類員數等所在租稅檢査員 派出所 へ届出其封緘ヲ受ク使用ノ都度開封ヲ乞フベシ違フモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

○第三款 田圃害蟲豫防規則

○靜岡縣甲第七十四號 明治十九年六月十四日(公布)

田圃害蟲豫防規則

第一條 田圃ニ害蟲發生セシル本則ニ依リ豫防又ハ驅除スベキ害蟲ハ左ノ種類トス

- 但場合ニ依リ縣廳ニ於テ特ニ虫名ヲ指示ノ本則ニ據シムルコトアルベシ
- 一 浮鹿子
- 二 螟蟲
- 三 蝗蟲

第二條 驅虫地區ハ一町村ヲ以テ一地區トス

第三條 驅虫ノ事務ハ都テ勸業委員之ヲ擔任スベシ

第四條 一地區ニ驅虫世話係リ一人ヲ置クモノトス  
但シ便宜三人以内ヲ置クヲ得ル

第五條 驅虫世話係ハ勸業委員ヲ補佐シ其事務ニ從事スルモノトス

(本條但書ハ明治二十年七月六日縣令第五十七號ヲ以テ削除セラレタリ)

第六條 驅虫世話係ハ戶長之ヲ特選シ其住所姓名ヲ届出ベシ

第七條 驅虫世話係ハ町村會ノ決議ニヨリ手當ヲ給スルヲ得

第八條 田圃ニ書虫發生セシキハ其作人ニ於テ速ニ驅除ニ着手シ小

作ハ地主ヲ經テ書面ヲ要セズ其旨勸業委員及驅虫世話係へ届出ベシ

第九條 勸業委員及驅虫世話係ハ書虫ヲ發見スル歟又ハ届出ヲ請

タルキハ直ニ實況ヲ見分シ驅除ノ手順ヲ示シ其旨戶長へ届出ベシ

第十條 書虫蔓延ノ徵アリト認ムルキハ勸業委員及驅虫世話係リハ

戶長ト謀リ其區域人民ヲシテ驅虫及豫防ニ從事セシムベシ

第十一條 作人ハ勸業委員及驅虫世話係ノ通知ニ從ヒ速カニ豫防又

ハ驅除ニ從事スベシ

第十二條 第十條第十一條ノ場合ニ於テハ其一切ノ費用(自作小作ヲ

論ゼズ驅除及豫防ニ係ル人夫ヲ除ク)ハ町村費ヲ以テ支辨スル者トス

第十三條 第十條第十一條ノ場合ニ於テハ戶長ハ其景況及豫防又ハ

驅除ノ顛末等其時々速ニ縣廳ニ届出隣地戶長へ通報スベシ

第十四條 第八條第九條第十條第十一條ニ違背スル者ハ一日ノ拘留

ニ處シ又ハ拾錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス(明治二十年十月五日縣令第九十三號ヲ以テ本條右ノ如ク改正セラレタリ)

第四章 鳥獸獵及漁業

第一款 鳥獸獵規則

◎太政官第十一號

明治十年一月二十三日(布告)

鳥獸獵規則別紙ノ通改正候條此旨布告候事

(別紙)

◎鳥獸獵規則

(明治十四年太政官第四十三號ヲ以テ本則中内務省トアルルヲ農商務省ニ内務卿トアルルヲ農商務卿ト改正セラレ)

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノ爲メ

ニスルヲ遊獵トス

第二條 銃獵免狀ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ズ

但有害ノ鳥獸ヲ除ガ爲ニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フベシ

第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢

ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ヘ差出スベシ

(明治十四年太政官第六十一號ヲ以テ本條右ノ如ク改正セラル)

第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若ク

ハ授受スルコトヲ禁ズ

第五條 免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムベシ

一 職獵稅 金壹圓 一 遊獵稅 金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東京府

下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ届出ベシ再ビ免狀ヲ願受ク

ル者ハ更ニ税金ヲ納ムルニ及バズト雖モ手数料トシテ金貳拾五錢

ヲ納ムベシ (明治十四年太政官第六十一號布告ヲ以テ本條右ノ如ク改正セラル)

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀ヲ付與セザルベシ

一 十六歳未滿ノ者 一 白痴瘋癲等ノ者

一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ禁ズ

一 都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一 銃丸ノ達スベキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一 禁獵制札ノ場所

但シ制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字

ヲ記シ掲ケ置クベシ

一 作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ携内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限リニアラズ

第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルベシ軍銃

ヲ用フルヲ禁ズ

但シ開拓使管内ニ限リ和銃玉目十匁以下ヲ用フルヲ得ベシ

(明治十年太政官第八十五號布告ヲ以テ本條但書右ノ如ク更ニ追加セラル)

第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス此  
時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ズ

但地方ノ景况ニヨリ已ムヲ得ズ此期限ヲ伸縮スル時ハ其理由ヲ  
農商務省ヘ届出ベシ

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ズ

第十二條 凡出獵スル者ハ必ズ其免狀ヲ携帶スベシ出獵中警察官吏  
區戸長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アルキハ直ニ之ヲ示スベシ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスル時ハ

第八條ニ示ス所ノ如キ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲナスベシ

第十四條 凡テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スベシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラズシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵

スル者ハ五十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期限内銃獵ヲ禁ズベシ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ證據ヲ取リ訴出ル時ハ犯人罰金ノ  
半ヲ賞トシテ與フベシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナ

カラズ貳拾圓ヨリ多カラザル罰金ヲ科スベシ

第十八條 開拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵フ

ベシ  
(明治十年大政官第八十五號  
布告ヲ以テ本條追加セラル)

○第二款鮎兒鰻兒捕獲禁令及湖川名

○静岡縣甲第七拾七號 明治十六年九月十八日(公布)

水産繁殖ノ爲メ鮎兒鰻兒捕獲ノ儀左ノ通禁止ス若シ違犯シタル者

ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓二拾五錢以

下ノ科料ニ處ス  
(明治廿一年四月廿八日縣令第三十號ヲ  
以テ禁止ノ下右ノ如ク改正セラレタリ)

但シ本年十二月一日ヨリ實施候事

伊豆國賀茂郡	一 仁科川	本支川共
一 稻生澤川	同國賀茂郡那賀郡	
一 青野川	同 上	同 上
同國那賀郡	同國同郡	



一 伊東川	本支川共	遠江國榛原郡	
一 河津川	同上	一 大井川	本支川共
同國君澤郡田方郡		同國周智郡	
駿河國駿東郡		一 吉川	同上
一 狩野川	同上	同國豊田周智長上郡	
駿河國富士郡		一 天龍川	同上
同國 庵原郡		同國豊田郡	
一 富士川	同上	一 愛宕川	同上
同國 同郡		一 蒲川	同上
一 興津川	同上	同國豊田山名周智郡	
同國安倍郡		一 太田川	同上
一 安倍川	同上	同國引佐郡	同上
一 蕪科川	同上	一 都田川	同上
同國志田郡		一 井伊谷川	同上

右諸川ニ於テ毎年二月一日ヨリ五月三十一日マテ鮎兒ノ捕獲ヲ禁ズ

伊豆國君澤郡田方郡

駿河國駿東郡

一 狩野川

駿河國庵原郡

同國有波郡

一 巴川

遠江國豊田郡山名郡

一 今ノ浦川

一 仿僧川

同國豊田山名周智郡

一 太田川

同國豊田郡周智長上郡

右湖川ニ於テ毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日迄鮎兒捕獲ヲ禁ズ

一 天龍川	本支川共	
同國引佐郡		
一 都田川	同上	
一 井伊谷川	同上	
同國敷知郡		
一 濱名湖	接續湖江共	
同國敷知郡長上郡		
一 馬込川	本支川共	
同國長上郡		
一 芳川	同上	

(明治二十一年六月一日縣令第四十五號ヲ以テ濱名湖ノ次ヘ馬込川芳川ノ二川追加セラレ)

○第三款 漁業組合規則

○静岡縣甲第六十一號

明治十九年五月卅一日(公布)

漁業組合規則左ノ通り相定ム

○漁業 組合規則

第一條 漁業(水産動物植物採捕ヲ併稱ス)ニ従事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作り當應ノ認可ヲ受クベシ  
但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セザル地ハ組合ヲ要セザルコトアルベシ

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目途トスベシ

第三條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 捕魚採藻遠海漁業若クハ地引網採鮑心太草海苔採收ノ類  
各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ズ一組合トナスベシ

第五條 組合ノ規約ニ掲グベキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 二 組合ノ目的
- 三 役員選舉法及權限
- 四 會議ニ關スル規程
- 五 加入者及退去者ニ關スル規程
- 六 違約者處分ノ方法
- 七 費用ノ徵收及賦課法
- 八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ル事
- 九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事
- 十 漁場區域ニ關スル事
- 十一 前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルベシ  
ハ當應ノ認可ヲ受クベシ

第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスルベシ  
ハ當應ノ認可ヲ受クベシ

第八條 二府縣以上ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄應ヲ經テ

農商務省ノ認可ヲ受クベシ

但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルモ亦本條ニ準ズベシ

第九條 二府縣以上ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クベシ

但支部ハ組合ノ事情ニヨリ其必要ナラザル場合ニ於テハ之ヲ置カザルヲ得

○第三款鮑捕獲潛水器械使用制限罰則

○静岡縣甲第九十二號

明治十八年十月廿四日(公布)

鮑ヲ捕獲スル爲メ潛水器械ヲ使用候儀ハ毎年九月十日ヨリ翌年三月二十日迄禁止ス若シ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

(明治二十年十月五日縣令第九十四號ヲ以テ本項中禁止スノ下右ノ如ク改正セラル)

●第五章 公園及遺失物取扱

○第一款 静岡公園規則

○静岡縣甲第三百三十二號

明治十五年十月十一日(公布)

静岡縣公園規則別冊ノ通更定候條此旨布達候事

○静岡公園規則

第一條

公園内へ車馬ヲ乘入レ竹木花草ヲ伐リ魚鳥ヲ捕ルヲ禁ズ

第二條

縣社淺間神社外三社神宮氏子總代ヲ以テ公園取締人トシ堀垣通路ノ修理及花木ノ培養出店營業人取締等ノ事ヲ管掌セシム

第三條

公園門ハ日出ニ開キ午後第十時ヲ限リ閉鎖ス

第四條

公園内ニ展覽物ヲ置キ或ハ百花草木ヲ植ヘ遊歩休憩ノ爲メ茶店ヲ設ルノ類其他見苦シカラザル營業ハ差許シ地所貸渡シ候條公園取締人三名(神官一名氏子信徒總代二名以上)以上ノ奥書與印ヲ以テ郡役所へ願出許可ヲ受クベシ

但別ニ規則ノアル營業ハ其規則ニ從ヒ其筋へ届出又ハ許可ヲ受クベシ

第五條 借地人地稅上納ニ不及然レモ公園周圍ノ堀垣道路ノ修繕其

他公園ニ屬スル雜費ハ取締人ト協議シ相當ノ金額ヲ公園ヘ出スベシ

第六條 借地人ハ火ノ元ハ勿論借地ノ周圍入念掃除シ兼テ園内ノ建物樹木等保護ノコトニ注意スベシ

第七條 公園内ニ竈ヲ築立住居スルヲ禁ズ  
但シ番人掃除人ハ本條ノ限リニアラズ

第八條 借地人園内ニ於テ不取締ノ所業有之乎又ハ神社若クハ公園ノ都合ニ依リ返地セシムルコトアルベシ

但シ本條ノ場合ニハ郡役所ニ於テ返地ヲ達シタルヨリ日數十日以内ニ引拂フベシ

第九條 取締人ハ時々園内ヲ巡視シ諸事取締致スベシ

第十條 公園内ニアル社殿其他神社ニ屬スル建物ハ一般神社ノ規則ニ依リ神官並氏子及信徒總代人ニテ取扱フモノトス

第十一條 公園内ノ竹木伐採ハ取締人連署當廳ヘ出願許可ヲ受クベシ  
(明治十六年甲第七十五號ヲ以テ本條右ノ如ク改正セラレ)

◎第二款 遺失物取扱規則

◎太政官第五十六號

明治九年四月十九日(布告)

遺失物取扱規則左之通相定候條此旨布告候事

◎遺失物取扱規則

第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルコトヲ覺ラズ及ヒ其所在ノ明カナラザルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨ンテ物主其場ニ就テ其主タルコトヲ證明スルニ於テハ直チニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論ズルコトヲ得ズ

第二條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レバ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラザレハ之ヲ官ニ送ルベシ官之ヲ榜示シ一年内其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ク詳細ニ記載シ速カニ官ヘ届出ベシ  
但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ベシ

第四條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レバ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且ツ得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五ヨリ少カラズ二十ヨリ多カラザル金圓ヲ給スベシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 遺失物ヲ得ルニ物品盜難ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルベシ官之ヲ其主ニ還シ止メ其費用ノミヲ償ハシム

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得タルモノハ之ヲ官ニ送ルベシ其主分明ナラザルモノハ地主ノ所有ニ歸スベシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト中分セシム

但盜藏ニ係ルモノハ此限ニアラス(明治十四年大政官第二號布告ヲ以テ本條及但書共右ノ如ク改正セラル)

第七條 凡ソ遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラザル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルベシ官之ヲ公賣シテ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第八條 凡ソ家畜ノ類他所ニ逃走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ

得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財產ヲ毀損スルモハ律ニ照シテ處分ス

第九條 凡ソ逃走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラザレバ之ヲ官ニ送ルベシ若シ八日內其主無レバ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アル者ハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第十條 凡ソ遺失物及逃走畜ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第十一條 凡ソ警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハズ遺失物ヲ得レバ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還付シ其主ナクレバ之ヲ官ニ沒ス第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レバ遺失及埋藏ヲ論ゼズ並ニ官ニ沒ス第十三條 凡ソ公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論ズルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フベシ

●第六編 第一章 第一款傳染病豫防規則

第十四條 凡遺失物及逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セズ或ハ物主ノ其主ナルコトヲ證明スルニ冒認シテ返還セザル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

●第六編 衛生取締法令罰則

●第一章 傳染病豫防及種痘

◎第一款 傳染病豫防規則

◎太政官第三十四號

明治十三年七月九日(布告)

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

(明治十八年太政官第二十四號布告ヲ以テ本則中衛生委員トアルヲ長ト改正セラレ)

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸室扶私赤痢實布埤利亞、  
發疹室扶私及痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルルハ地方長官ハ内

務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スベシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二拾四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通知スルヲ要ス戸長ハ速カニ之ヲ郡區長及ヒ最寄リ警察署ニ通知シ郡區長ハ速カニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出ベシ地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治愈死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スベシ(明治十三年太政官第五十四號布告ヲ以テ本條中末文ヲ追加セラレ)

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ハ届出警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨シナシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルルハ其性狀ヲ記シテ速カニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スベシ

第四條 (明治十三年太政官第五十四號布告ヲ以テ本條削除ス) 第三條但書前同斷削除ス

第五條 諸官廳兵營軍艦監獄及ヒ官立ノ學校病院製作所等ニ於テ傳染病者アルル其主長ハ該地方長官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スベシ

●第六編 第一章 第一款傳染病豫防規則

第六條 虎列刺赤痢發疹窒扶私痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スベキト認ムルキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得ル

但シ人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フベシ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カズ若クハ病毒ノ傳播ヲ防ギ難シト認ムルモノハ避病院ニ入ラシムベシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼附シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムベシ

但シ患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハザルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムベシ

(明治十五年八月第四十七號ヲ以テ本條中病名票貼付ノ義務分ニテ施行セザルモラフ)

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ビ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムベシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムベカラズ且ツ他ニ改葬スルヲ許サズ

但シ火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ビ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラザレハ再ビ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サズ

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉河流水道及ビ厠固芥溜下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルベキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クベシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從テ處分スベシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢ヒ猛劇ナルキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ビ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得ル

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備スル病ヲ診斷スルキハ總テ檢疫委員ニ届出ベシ

(明治十五年太政官第四十八號布告ヲ以テ本項並ニ但書共追加セラル)

但本項施行終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スベシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ

差止ルヲ得(明治十四年太政官第五十八號布告ヲ以テ左ノ一項並ニ但書共追加セラレ)

虎列剽已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯シ

其他ノ部分ニ及ボサル様遮斷シ得ベキモノト見認ルトキハ地方

官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得

但シ要用ノ者ハ掛官吏検査ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸窒扶私病(カルキ子ツビ)

第十六條 腸窒扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ビ第十二條ヲ適

用スベシ

赤痢病(リビヤツ)

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及第十二條ヲ適用スベシ

實布埤里亞病(俗ニ云フ)

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及

ビ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムベシ

發疹窒扶私病(ハンゲシキ子ツ)

第十九條 發疹窒扶私病アルルハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ

際ニハ第十二條第十三條第十四條及第十五條ヲ適用スベシ

(明治十三年太政官第五十四號布告ヲ以テ本條改正相成ル)

第二十條 發疹窒扶私病若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒

法ヲ行フニアラザレバ他用ニ供スベカラズ

痘瘡病(ハンチン)

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及ビ第二十條ヲ適

用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムベカラズ其流行ノ際ニハ第十二條

ヲ適用スベシ

(明治十五年太政官第四十八號布告ヲ以テ本條改正ス)

第二十二條 醫師衛生委員此規則ニ違背シタルルハ五拾圓以内ノ罰



金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓  
以內ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルキハ壹圓五十錢以內ノ科料ニ  
處ス

◎第二款 種痘規則

◎太政官第三十四號

明治十八年十一月九日(布告)

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但シ明治九年內務省甲第八號及甲第拾六號布達ハ此規則施行ノ  
日ヨリ廢止ス

◎種痘規則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以內ニ之ヲ行フベシ若シ不善感ナ  
ルキハ更ニ一週年內ニ再三種ヲ行フベシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖ヒ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年

乃至七年ニ三種ヲ行フベシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラズ掛  
官吏ノ指定シタル期日內ニ種痘ヲ行フベシ

第四條 種痘ヲ受クベキモノ病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三  
條ノ時期ニ種痘ヲ行フ不能ハザルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ  
親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ添ヘ戶長役場ニ届出ベシ

第五條 種痘ヲ受クシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ク痘  
漿採取ヲ要スルキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ届出ベシ  
但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スベシ

第七條 十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼  
者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任ズベシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ付與スベシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルルルハ本條ニ準シ其證ヲ付與スベシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スベシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ベシ

○第三款 種痘規則細則

○静岡縣甲第百九號

明治十八年十二月十七日(公布)

明治十八年太政官第三十四號布告種痘規則第十一條ニ據リ細則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

但此細則ニ抵觸スル從前ノ諸達ハ凡テ廢止ス

○種痘細則

第一條 一町村又ハ數町村聯合シ病院若シクハ開業醫ノ私宅若シクハ其他適應ナル場所ヲ撰ミテ種痘所ヲ設置シ何町村種痘所ト明記シタル標札ヲ掲ケ置クベシ

第二條 種痘所ハ一ヶ所毎ニ其受持醫ヲ定メ之レガ種痘ヲ負擔セシムベシ  
但一名ニシテ數ヶ所ノ種痘所ヲ受持ツモ妨ケナシ

第三條 種痘所ノ地名番地及受持醫ノ氏名並ニ其組合町村名ハ郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ届出ツベシ  
但變更在ルルモ本條ニ準ズ

第四條 戸長ハ第壹號書式ニ依リ本籍寄留ヲ問ハズ一町村毎ニ種痘人名簿ヲ製シ月々戸籍簿及寄留調ニ照シ之レガ増減ヲ爲シ種痘ノ用ニ供スベシ(書式ヲ略ス)

第五條 種痘所受持醫ハ豫メ種痘日檢診日ヲ定メ戸長ニ報告シ且ツ種痘所入口及ヒ其他適宜ノ場所ニ揭示スベシ

第六條 戶長ハ前條醫師ノ報告ニ依リ其時日ヲ組合町村ニ達シ第四條種痘人名簿ニ據リ遺漏ナク接種及檢診セシムベシ

第七條 種痘規則第一條第二條ニ該當スルモノハ戶長ノ達示ニ從ヒ其種痘所ニ就キ接種スベシ

但其望ニ依リ他ノ種痘所又ハ病院若クハ開業醫ニ就キ接種スルモ妨ゲナシ

第八條 種痘規則第三條ノ場合ニ於テハ種痘人名簿ニ記載ノ外滞在者ト雖モ普ク接種セシムベシ

第九條 種痘規則第四條ニ依リ種痘ヲ延期シタル者病氣全快シ若クハ事故止ミタルルハ速カニ其旨戶長ニ届出接種ノ指押ヲ受クベシ

第十條 戶長ハ種痘規則第六條ノ届出ニ依リ證書ヲ檢閲シ初痘再三種善感不善感或ハ天然痘濟ノ別ヲ戶籍簿及種痘人名簿ニ記入シ證書ハ種痘人名簿ニ割印ノ上本人ニ返附スベシ

第十一條 種痘規則第八條ノ種痘證及ヒ天然痘濟ノ證ハ第二號書式

ニ依リ記載スベシ(書式略之)

第十二條 種痘所一ヶ所ニ付痘苗一管若クハ數管ヲ春秋二季ニ下與スベキニ付醫師ハ其繼續法ヲ立テ欠乏セザル様致スベシ

第十三條 種痘所受持醫ハ種痘者ノ族籍氏名年齢及ヒ初種再三種善感不善感ノ別ヲ記載シ種痘所ニ備置キ掛官吏ノ點檢ニ供スベシ

但病院並ニ開業醫ニ於テ接種シタルモノモ亦本條ニ準ズ

第十四條 管内送籍ノ節戶長ハ種痘初再三善感不善感及ヒ年月日或ハ天然痘濟ノ別ヲ送籍證ニ明記スベシ

但シ寄留ノ者ハ寄留ノ節特ニ之ヲ原籍戶長ヨリ寄留地戶長ニ通報シ原籍へ復歸スルルハ寄留地戶長ヨリ原籍地戶長へ同様通報スベシ

(明治十九年四月十六日日本縣甲第四十八號布達ヲ以テ右十四條但書追加セラレタリ)

第十五條 戶長ハ每半期第三號書式ニ依リ種痘人員表ヲ製シ毎年一月七廿日限リ郡役所ヲ經由シ縣廳ニ差出スベシ(書式略之)

第十六條 種痘規則第一條第二條第三條ノ外ニ接種スルモノハ前各

條ノ手續ヲ施行ス (明治十九年四月十六日日本縣甲第四十八號布達ヲ以テ右十六條及ビ左ノ壹項更ラニ追加セラレタリ)

第三號書式解釋ヘ左ノ一項ヲ加フ

一 疾病事故ニテ種痘セザルモノ滿十五歲以上ノ欄ハ記入ニ及バズ

◎第四款 獸類傳染病豫防規則

◎農商務省令第十一號 明治十九年九月十五日(公布)

獸類傳染病豫防規則左ノ通り制定シ明治廿年一月一日ヨリ施行ス但シ明治九年(二月)內務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

◎獸類傳染病豫防規則

第一條 此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ

- 一 牛疫
  - 二 炭疽熱
  - 三 鼻疽及ヒ皮疽
  - 四 傳染性胸膜肺炎
  - 五 傳染性鵝口瘡
  - 六 羊痘
- 第二條 獸類傳染病ニ罹リタルキ若クハ其症候ノ疑ヒアルキハ所有

者又ハ管理者ハ其患畜ト健畜ヲ隔離シ獸醫ヲシテ患者及ビ之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムベシ

第三條 獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルキハ所有者又ハ管理  
者ト連署シ直ニ警察署及ヒ戶長役場ニ届出ベシ

第四條 獸醫牛疫ト診斷シタルキハ警察官吏及ヒ獸醫立會ノ上所有  
者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スベシ

第五條 第四條ノ場合ニ於テハ三人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格  
ヲ定メ所有者ニ左ノ手當金ヲ下付スベシ

- 評價金二拾五圓マデ 手當金評價十分ノ四
- 評價金五拾圓マデ 同 十分ノ三
- 評價金百圓マデ 同 十分ノ二
- 評價金二百五拾圓マデ 同 十分ノ一
- 評價金五百圓マデ 同 十五分ノ一
- 評價金千圓マデ 同 二十五分ノ一

第六條 獸醫傳染蔓延ノ兆候アリト認めルトキハ直チニ其旨ヲ警察署及ビ戸長役場ニ届出ベシ

第七條 第三條ノ届ヲ受ケタル戸長役場ニ於テハ其旨ヲ患者所在ノ近傍ニ揭示スベシ

第八條 傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルモ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及ビ戸長役場ニ届出ベシ

第九條 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其ノ排泄物及ビ之ニ觸レタル飼料褥草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニ於テ燒棄ツルカ又ハ消毒法ヲ施シ深サ六尺以上ノ坑ヲ掘リテ埋没スベシ

但シ埋没シタル場所ハ十二箇年ノ後ニ非ザレバ發掘スルヲ得ズ  
第十條 傳染病畜及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其患者ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フベシ

第十一條 道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラザレバ轉移スルヲ許サズ

第十二條 傳染病ノ流行ニ際シ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及斃牛馬化成ニ關スル營業ヲ停止スルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ届出ベシ

第十三條 第三條第六條第八條ノ届ヲ受ケタル戸長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直チニ所轄廳（警視廳北海道廳府縣廳ヲ云フ）ニ届出ベシ

第十四條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及ビ第六條ニ該當スベキ届ヲ得タルモハ直チニ其旨ヲ管内ニ告示スベシ

但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直チニ其旨ヲ管内ニ告示スベシ  
第十五條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ届ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ届出ベシ

第十六條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スベキ届  
ヲ得タルトキ及ビ管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報  
告ヲ得タルトキハ農商務大臣ノ允許ヲ得テ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出  
入往來ヲ停止スルヲ得

第十七條 牛疫蔓延ノ際ニ限り其患畜ニ接近シタル牛ハ假令健康ノ  
モノナリトモ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ農商務大臣ノ  
允許ヲ得タル後之ヲ撲殺セシムルヲ得ル

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金ノ全額ヲ下付  
スベシ

第十八條 牛疫ヲ除クノ外傳染病蔓延ノ際ニ於テハ警視總監北海道  
廳長官府縣知事ハ農商務大臣ノ允許ヲ得タル後其患畜ヲ撲殺セシ  
ムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スベシ  
第十九條 此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓

以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

但シ刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラズ

○第二章 飲食物衛生

○第一款 飲食物並玩弄品着色料規則

○静岡縣甲第八號

明治十六年二月五日(公布)

飲食物並ニ玩弄品着色料規則左ノ通り相定メ候條此旨布達候事  
但シ明治十一年本縣甲第五十四號布達ハ廢止ス

○飲食物並ニ玩弄品着色料規則

第一條 飲食物並ニ玩弄品ニ用ユル着色料ハ第二條第三條ニ列記ス  
ル品料ニ限ルベシ

第二條 左ニ列記スル十九種ハ飲食物及ビ玩弄品ニ用ユルモノニシ  
此品料ノ内調合シ用ユルモ妨ゲナシ

赤色ノ部

○ベンガラ (一名鉄丹即チ第二酸化鉄) ○茜草 (俗名アカチ)

- 狸燕脂 (コセニールヲ以テ製スルモノ) ○ 蘇木 (俗名スアフ)
- 日本紅 (笹紅染紅類即チ紅花ヲ以テ製スルモノ) 黄色ノ部
- 黄柏 (俗名キハク) ○ 山梔子 (俗名クチナシ)
- 栴皮 (俗名ズミ山梨ノ皮ヲ以テ製スルモノ)
- 鬱金 (鬱金根ヨリ製スルモノ) 青色ノ部
- 日本藍 (藍玉藍紙ニシテ製スルモノ)
- 生藍 (藍葉ヨリ製スルモノ) 綠色ノ部
- 青粉 (野菜並ニ海藻ヲ以テ製スルモノ) ○ 抹茶 (俗名ヒキ茶) 紫色ノ部 ○ 紫根 黑色ノ部
- 油煙 (清淨ナルモノ) ○ 煤炭 (同)

金色並ニ銀色ノ部

- 金箔 (純金ヲ以テ製スルモノ)
- 金粉 (同) ○ 銀箔 (純銀ヲ以テ製スルモノ) ○ 銀粉 (同)
- 第三條 左ニ列記スル十一種ハ玩弄品ノミニ用ユルモノニシテ此品料及ヒ前條十九種ノ内調合シ用ユルモ妨グナシ 但シ金泥粉雲母錫箔ノ三種ハ可成嬰兒ノ紙膏(ナメ)スベキ玩弄品ニ用ユル可カラズ
- 一 胡粉 一角粉 一 石膏 一 砥ノ粉 一 地ノ粉 一 黄土 一 代赭石 一 玉墨 一 金泥粉 (天造硫化鉄ヲ以テ製スルモノ) 一 雲母 (俗名キラ) 一 錫箔
- 第四條 前二條ニ列記スル品料ノ外若シ施用セント欲スルモノアルキハ其品名産出所及經驗セシ無害ノ理由等ヲ詳記シ現品相添ヘ願出許可ヲ受クベシ
- 但産出所並ニ無害ノ理由不分明ノ者ハ其次第ヲ詳記シ願出ベシ
- 第五條 本則ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ

處分ス(明治二十年十一月八日縣令第九號  
ヲ以テ更ラニ本條追加セラレタリ)

○第二款 飲食物藥品使用規則

○静岡縣甲第百壹號 明治十六年十一月十六日(公布)

飲食物藥品使用規則左ノ通相定候條此旨布達候事

○飲食物藥品使用規則

第一條 飲食物ノ防腐防臭濁下ケ色止メ等ノ爲メ藥品ヲ調製販賣セ  
ントスル者ハ製法用法分量等ヲ詳記シ現品相添ヘ願出テ許可ヲ受  
クベシ

第二條 前條ノ手續ヲ經ザル品藥ヲ飲食物ニ使用シ販賣セントスル  
モノハ前同様願出許可ヲ受クベシ

第三條 前二ノ條ノ藥品トハ明治十三年太政官第壹號公布藥品取扱  
規則記載ノ品ニ限ルベシ

第四條 本則ニ違背シタルモノハ刑法第四百廿六條第四項ニ依リ處  
分ス(明治二十年十一月八日縣令第九號  
布達ヲ以テ本條右ノ如ク改正セラレ)

○第三款 牛乳搾取販賣規則

○静岡縣甲第貳拾號

明治十八年三月六日(公布)

牛乳搾取販賣取締規則別紙之通り相定候條此旨布達候事

但シ明治十年本縣乙第九十號違自今廢止ス

(別紙) ○牛乳搾取販賣取締規則

第一條 牛乳ヲ搾取販賣セントスル者ハ第一號書式ニ依リ所轄警察  
署又ハ分署ヲ經由シ願出免許鑑札ヲ受クベシ

第二條 請賣セントスル者ハ第二號書式ニ依リ所轄警察署又分署ニ  
願出免許鑑札ヲ受クベシ

第三條 別ニ賣捌所ヲ置クルハ廢設トモ其箇所ヲ記シ所轄警察署又  
ハ分署ニ届出ベシ

第四條 轉居改姓名等ニテ鑑札書替ヲ要スルカ又ハ紛遺失其他ニテ  
再下付ヲ請ハントスルルハ第三號書式ニ依リ願出ベシ

第五條 鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ許サズ



第六條 廢業シタルキハ其旨届出鑑札返納スベシ

第七條 家場ハ可成人家ヲ隔離シ近隣地主及居住人ニ於テ故障ナキ地ヲ鑑定スベシ

第八條 家場ハ常ニ掃除ヲナシ勉メテ臭氣ヲ防ヤ盛夏炎熱ノ候又ハ人畜流行病アルキハ殊ニ注意スベシ

第九條 家場ヲ移轉セントスルキハ第一條ノ手續ニ依リ願出ベシ

第十條 乳牛ハ毎頭番號ヲ付シ第四號書式ニ依リ所轄警察署又ハ分署へ届出ベシ

但シ増減アルキモ又本文ニ準ズ

第十一條 乳牛ハ体格強壯ニシテ其血統善良ノモノヲ撰ムベシ

第十二條 乳牛ハ食餌ヲ撰ビ乳質ヲ變惡スル憂ナキモノヲ與フベシ

第十三條 乳牛若シ疾病ニ罹リタルキハ其發病全癒トモ所轄警察署又ハ分署へ届出ベシ且全癒後一周間以上ヲ經ルニアラザレバ其乳汁ヲ販賣スベカラズ

但シ毒ヲ遺スベキ疾病ニ罹リタルモノハ將來乳牛トスベカラズ

第十四條 分娩後始メテ乳汁ヲ搾取販賣セントスルキハ第五號書式ニ依リ所轄警察署又ハ分署交番所へ出ベシ

第十五條 牛乳ノ搾取ハ一日一次乃至二次トス若シ一日或ハ數日ヲ隔テ搾取スルキハ初メ一回ノ乳汁ハ販賣ニ供スベカラズ

第十六條 牛乳ハ分娩十五日後七ヶ月ヲ限リ搾取シタルモノニアラザレバ販賣スベカラズ

第十七條 宿乳其他不良若クハ他ノ品種ヲ混合シタル乳汁ヲ販賣スベカラズ

第十八條 牛乳ノ容器ハ陶硝子錫若クハニブリキ製ニシテ蓋アルモノヲ用ヒ銅製又ハ鉛製ヲ用ユベカラズ

第十九條 牛乳ヲ購求者へ配付セントスルキハ其提携スル容器ノ見易キ處へ左ノ如ク記載スベシ

牛乳

社名若クハ氏名

第二十條 傳染病者アル家ニ乳器ヲ留メ置クベカラズ  
第二十一條 家畜傳染病流行ノ節ハ其病勢ニ由リ販賣ヲ差止ムルコトアルベシ

第二十二條 掛リ官ニ於テ臨時牛乳ノ良否飼養ノ如何等ヲ検査スルコトアルベシ

第二十三條 此規則ニ違背シタル者ハ違背罪ノ刑ニ處セラル、ノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルベシ

第一號書式 牛乳搾取販賣願

今般何國何郡何村何番地ニ於テ牛乳搾取販賣仕度候間免許鑑札御下付被成下度尤モ近隣等ニ於テ故障筋無之候間別紙圖面相添へ此段奉願候也

何府何國何郡何村何番地族籍  
(社名アルモノハ記載スベシ)

何 某 印

借地借家ナレバ其所有主連署スベシ

年 月 日

同上 近隣地主 何 某 印  
同上 近隣居住人 何 某 印

静岡縣令姓名殿

前書之通相違無之ニ付與印仕候也 戶長 何 某 印  
衛生員 何 某 印

第二號書式 牛乳請賣願

今般何郡何村何番地牛乳搾取販賣人何某ヨリ請賣仕度候間鑑札御下付被成下度連署ヲ以テ此段奉願候也

何縣何國何郡何村何番地族籍 何 某 印  
請賣人 何 某 印  
搾取販賣人 何 某 印

何警察署又ハ分署御中ニ戸長衛生委員與書ハ第一號書式ニ全シ

第三號書式 鑑札書換(再渡願)

今般事由ヲ詳記ス仕候間鑑札書換更ニ御下付被成下度此段奉願候也  
何縣何國何郡何村何番地族籍 何 某 印  
牛乳搾取販賣人 何 某 印

静岡縣令姓名殿

請賣鑑札書替者クハ再渡願ハ警察署又ハ分署宛ニスベシ

第四號書式 御届

(同前)

今般牛乳搾取販賣御免許相成候處所持ノ乳牛左ノ通ニ有之候間此段申上候也

年月日

何縣何國何郡何村何番地族籍  
牛乳搾取販賣人 何 某 印

警察署又ハ(分署)御中

第何號

一洋種 又ハ和種或ハ和洋雜種 年齡 何毛色

第五號書式 牛乳搾取御届

第何號 年月日 分換

一洋種 又ハ和種或ハ和洋雜種 年齡 何毛色

右ノ乳汁來ル何日ヨリ搾取販賣仕候此段御届申上候也

何縣何國何郡何村何番地族籍

年月日

牛乳搾取販賣人 何 某 印

何警察署又ハ(分署)交番所御中

○第四款 氷製造並販賣取締規則

○静岡縣甲第五十二號 明治十六年六月十二日(公布)

明治十一年<sup>十二</sup>本縣甲第六十二號布達左ノ通改正候條此旨布達候事

○氷製造並販賣取締規則

第一條 氷ヲ製造販賣セント欲スル者ハ左ニ掲グル第一項ノ款目ヲ詳記シ圖面相添ヘ且ツ第二項ノ方法ニ據リ製氷ニ充ツベキ水ヲ吸取リ毎年九月一日ヨリ十一月三十日ヲ限リ検査願出許可ヲ受クベシ

第一項

第一款 製氷場ノ地名番號並ニ官民有ノ區別

第二款 製氷場ノ構造並ニ水池水管等ニ用ユル用材ノ種類

第三款 水源ノ地名及ヒ其河泉名並ニ距離

第四款 製氷場並ニ水道ヲ距ル二町以內ニ田畝其他埋葬火葬場

獸畜捨場屠場肥料製造場等アルキハ其位置及距離

第五款 製氷場並ニ其近傍ノ地形地質

第六款 製氷貯藏場ノ位置構造及貯藏法

第二項

第一款 製氷ニ充ベキ水凡ニ升ヲ汲取容器ハ硝子壺ヲ用フベシ

第二款 汲取リ法ハ先ツ製氷ニ充ツベキ水ヲ以テ丁罎ニ容器ヲ

洗淨シ后容器ヲ其水中ニ沈メ水ヲ充テ水中ニテ(キユルク)ヲ以

テ栓塞シ直ニ封蠟又ハ松脂ヲ以テ密閉スベシ

第二款 製氷場ハ第一條第四款ノ場所ハ勿論人家道路下水等ニ隔離

スル清潔ノ地ヲ撰ミ石材或ハ厚板ヲ以テ堅牢ナル水池ヲ構成シ汚

水ノ滲透(ハカリ)ヲ防ギ地形ニ因リ適應ノ塵除ヲ施シ塵埃ヲ防止スベシ

第三款 製氷場ノ増減改築等ハ其廉々ヲ詳記シ其都度願出スベシ

第四條 製氷場ヲ賣渡シ又ハ讓與スルキハ其旨願出テ廢業若クハ改

姓名轉居等ノキハ其旨届出ベシ

第五條 製氷場並ニ貯藏場ハ時々掛官吏巡視シ若シ有害物混入ノ恐

レアルカ又ハ不潔ノ製ト見認ルキハ其構造ノ修繕ヲ命シ製造ヲ差

止メ若クハ投棄セシムルヲアルベシ

第六條 氷製造ハ其許可ノ月ヨリ滿一ケ年ヲ期限トナシ此期ヲ過ク

レバ許可ノ効ナキモノトス

第七條 製造人ニ於テ其製氷ヲ發賣セントスルキハ製氷聞届濟指命

ノ寫並ニ製氷五斤以上ヲ添ヘ全量ヲ記入シ検査願出許可ヲ受クベシ

第八條 (本條明治廿一年六月二日縣令第四十六號ヲ以テ削除セラル)

第九條 他府縣製造ノ氷ヲ買入發賣セントスル者ハ其都度氷三斤以

上該管廳ノ認許狀ヲ添ヘ所轄警察署へ願出許可ヲ受クベシ

第十條 第七條第九條ノ場合ニ於テハ試驗ノ上其質不良ト認ムルキ

ハ發賣ヲ許ササル事アルベシ

第十一條 第七條第九條發賣許可ハ現品猶ホ存スルモ其年十一月三

十日ヲ過クレバ許可ノ効ナキモノトス

但十二月中許可ヲ受ケタルモノハ翌年十一月ヲ限リトス

第十二條 第七條第九條檢査濟ノ製氷買受小賣セントスルモノハ發賣主ノ受ケタル檢査濟指令寫ヲ添ヘ發賣主連署シ所轄警察署又ハ分署巡査派出所ニ届出ベシ(明治二十年十一月八日縣令第四百十二號ヲ以テ本條中交番所ヲ巡査派出所ト改正ス)

第十三條 卸賣小賣共店頭ニ何地製造ノ氷ト大書シタル看板ヲ掲ケ行商ハ荷ヒ桶箱等ニ明記スベシ

第十四條 發賣禁止又ハ檢査未濟ノ品ト雖モ外用ニ供スル醫師ノ證書アレバ販賣若クハ授與スルコトヲ得

第十五條 天然ノ氷塊又ハ積雪ヲ貯藏シ販賣セントスルモノモ總テ此規則ニ準ズベシ(明治廿一年六月二日縣令第四百十六號ヲ以テ十六條中第八條ノ三字ヲ削除セラルル因テ左ノ如ク改ム)

第十六條 第五條第六條第十條第十一條第十四條ヲ除クノ外此規則ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分ス

(明治二十年十一月八日縣令第四百十二號ヲ以テ本條更ニ右ノ如ク改正セラレタリ)

○第三章 醫業及類技

○第一款 醫師心得

○静岡縣甲第七拾八號

明治十七年六月廿七日(公布)

明治十四年本縣甲第七十二號布達醫師心得左ノ通改正候條此旨布達候事

○醫師心得

第一條 醫術開業免狀所持ノ者本縣管内ニ入住スルモ其原籍並ニ住所ヲ詳記シ履歷書及免狀寫ヲ添ヘ届出ベシ(明治二十年十月縣令第四百三號ヲ以テ本條改正セララル)

第二條 管内ニ在テ住所ヲ轉シ又ハ他管下ヘ移轉スルモ寄留轉籍等ノ別ヲ詳記シ其都度届出ツベシ(明治十八年甲第四百二號ヲ布達シ以テ本條改正)

但出張所ヲ設ケ又ハ之ヲ廢シタルモ同様届出ツベシ

第三條 明治十六年第三拾五號布告醫師免許規則第五條ニ依リ假免狀ヲ得醫術開業セシ者ハ其許可ノ區域外ニ至リ醫術ヲ施スヲ得ズ

第四條 前條ノ醫師開業許可ノ區域ヲ去リ他ヘ移住セント欲スルモハ其旨届出免狀返納スベシ

第五條 診察ヲ爲サバレル者ニ藥劑ヲ投シ又ハ處方箋ヲ與フベカラズ  
 第六條 施治ノ患者死亡スルカ又ハ變死急症及ヒ妊娠四ヶ月以上ノ死胎分娩等死后檢案候節ハ丙號又ハ丁號書式ノ書面ヲ製シ死者ノ家人ニ付與スベシ若シ家人ナキハ直ニ其地ノ戸長若クハ衛生委員ニ差出スベシ

但數名ノ醫師ニテ取扱ヒタル節ハ主任ノ醫師本文ノ手續ヲナスベシ

(明治十八年甲第拾八號布達ヲ以テ本條但書トモ改正ス)

第七條 處方箋ヲ請フモノアレバ藥劑分量用法年月日患者及ビ自己ノ宿所姓名等ヲ詳記シ捺印シ與フベシ

第八條 施治ノ患者事故アリテ轉醫セント欲スル者病名及ビ處分記ヲ乞フハ之ヲ與フベシ

第九條 虎列刺腸窒扶斯赤痢寶布の里亞發疹窒扶斯及痘瘡ノ六病ヲ診斷スルキハ成規ニ依リ戸長ニ通知スルカ又ハ最寄警察署ニ届出ルノ外別紙甲號ノ届書ヲ製シ遅クモ翌日迄ニ之ヲ患者所在ノ町村

戸長ニ差出スベシ (明治十八年甲第八十一號布達ヲ以テ本條衛生委員トアルヲ戸長ト改ム)

但本文六病ノ外流行病アリテ其勢熾ナルノ兆アルキハ本條ニ準シ取扱フベシ

第十條 前條ノ病者全快又ハ死亡スルキハ別紙乙號ノ届書ヲ製シ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ差出ス可シ若シ其病ノ終期ニノミ診斷スルキハ病發ノ期日ヲ取調記入ス可シ (判斷前)

但本文届ノ外別ニ第六條ノ手續ヲナスベシ (明治十八年甲第拾八號布達ヲ以テ但書改正ス)

第十一條 流行病豫防法ニ付町村戸長等ヨリ協議ヲ受クルキハ速ニ之ニ應ズベシ (判斷前第九條ニ同シ)

第十二條 第三條第五條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 第六條第九條第十條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

(明治二十年十月十四日縣令第百三號布達ヲ以テ本則十二條右ノ通り更ニ改正追加ス)

(別紙) 甲號書式 (用紙適宜)

傳染病者届

病名

病發何月何日何時  
診斷何月何日何時

靜岡縣何國何郡何町何番地  
職業 姓

年齡何年何月 名

右之通候也

年月日

縣令宛

靜岡縣何國何郡何町何番地

醫師 姓名 印

乙號書式 (用紙適宜)

傳染病者死亡届

病名

病發何月何日  
第十條末段ノ如キ場合ニ於テハ其理由ヲ詳記スベシ

靜岡縣何國何郡何町何番地

職業 姓 年齡何年何月 名

(此行朱書)

右之通候也

年月日

全快何月何日  
死亡何月何日

靜岡縣何國何郡何町何番地

醫師 姓名 名

縣令宛

丙號書式

(明治十八年甲第拾八號布達ヲ以テ  
此丙號及ヒ次ノ丁號書式ヲ追加ス)

死亡届書 (死后診斷ナ  
レバ檢案書)

住所 族籍	何府何國何郡何町何番地 <small>寄留ナレバ寄留</small> 何府縣士族平民
戶主職業姓名	農商或ハ何々何之誰
死亡者職業姓名	(何業或ハ無職) 父母兄弟妻妾長次男女等何之誰
年 齡	何年何ヶ月
婚姻上ノ關係	(有配偶) 已婚無配偶(或ハ未婚)
病 名	何々(變死) 溺死創死瘧死毒死等及其事故
死亡ノ年月日時	明治何年何月何日何時

右之通候也

年月日

何郡何町何番地

醫師 何之誰 印

何郡何町村戶長宛

丁號書式

死産證

住所族籍	何府何國何郡何町番地 <small>寄留ナレハ何府縣士族平民</small>
戶主職業姓名	農商或ハ何々何之誰
妻妾或ハ長女姉妹等姓名	妻或ハ何々何之誰
年	何年何ヶ月
公生男女ノ別	(公生男兒)或ハ(私生男兒)
私生男女ノ別	
受妊年月	明治何年何月
死胎分娩年月日	明治何年何月何日
原因	何々

右之通候也

年月日

何郡何町番地  
醫師 何之誰 印

何郡何町村戸長宛

○第二款 獸醫心得

○静岡縣甲第九拾四號

明治十八年十月二十九日(公布)

獸醫心得左ノ通相定メ明治十九年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十七年三月本縣甲第貳十六號布達ハ本文施行ノ當日ヨリ廢止ス

○獸醫心得

第一條 管内ニ於テ獸醫ヲ開業セントスル者ハ族籍生年月並ニ開業ノ場所ヲ記シ履歷書及免狀寫相添縣廳ヘ届出ベシ

第二條 開業ノ場所ヲ轉シ又ハ出張所ヲ設ケントスル者ハ其場所ヲ記シ縣廳ニ届出ベシ

但出張所ヲ廢シタルモ其旨縣廳ヘ届出ベシ

第三條 明治十八年八月太政官第二十八號布告獸醫免許規則第五條ニヨリ假免狀ヲ得獸醫開業シタル者ハ其許可ノ區域外ニ到リ病畜ノ

治療ヲナスヲ得ズ

但區域外ノ病畜ト雖モ率來リテ治療ヲ請フモノアルモ此限リニアラズ

第四條 假開業免狀ノ有効期限ハ滿二ケ年以内トス



但シ滿期ノ節ハ免狀返納スベシ (明治十九年六月二日本縣甲第六十五號布達ヲ以テ本條更ニ追加相成リ以下順次繰下ケノ事)

第五條 前條ノ獸醫開業許可ノ區域ヲ去リ他ヘ移住セントスルハ其旨縣廳ヘ届出免狀返納スベシ

第六條 診察ヲ爲サル者ニ藥劑ヲ投シ又ハ處方箋ヲ與フベカラズ

第七條 家畜傳染病ヲ診斷スルハ甲號書式ニ其全治又ハ死亡スルハ乙號書式ニ據リ其旨二日以内ニ縣廳及ヒ所屬警察署又ハ分署ヘ届出且最寄獸醫ヘ通報スベシ

但シ尋常病ト雖モ流行熾ナルノ兆アルハ本文ニ準ズベシ

第八條 獸醫ハ牛馬賣買營業ヲ許サズ

第九條 此心得第一條第三條第六條第七條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

同心得第二條ニ違背シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

(明治二十年十月五日縣令第九十二號ヲ以テ本條更ニ右ノ如ク改正セラレタリ)

○第三款 産婆業取締規則

○静岡縣甲第七十二號 明治十八年七月十一日(公布)

産婆業取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

但シ明治十年九月本縣甲第九十二號布達産婆心得及本年三月本縣甲第十七號布達廢止ス

○産婆業取締規則

第一條 産婆營業ハ内務省免狀又ハ本縣免狀ヲ有スルモノニ限ル

第二條 内務省ノ免許ヲ受ケ産婆業ヲ營マントスル者ハ明治十八年七月本縣甲第七十四號ニ據リ試験願出ベシ

第三條 本縣ノ免許ヲ受ケ産婆業ヲ營マント欲スルモノハ願書ニ師ノ保證アル條學履歴書相添ヘ縣廳ニ願出ツベシ

但シ滿二十年以上ノ女子ニ限ル

第四條 内務省免許ノモノ他府縣ヨリ本縣管内ニ來リ營業セントスルハ免狀寫相添ヘ其旨届出ベシ

第五條 他府縣免許ノモノ本縣管内ニ來リ營業セントスルキハ其管  
應ノ證明書相添更ニ本縣免許ヲ願受クベシ

第六條 產婆營業者ハ藥劑ヲ投シ又ハ藥方ヲ指示スルヲ許サズ

第七條 難産ト認メタルキハ醫師ノ差圖ヲ受クルニアラザレバ安ニ  
手ヲ下スベカラズ

但内務省ノ免許ヲ得タルモノハ此限リニアラズ

第八條 醫師ノ目前ニアラザレバ醫術器械ヲ使用スベカラズ

第九條 妊娠四ヶ月以上ノ死胎分娩ヲ取扱ヒタルキハ別紙書式ニ據  
リ證書ヲ作り其家人ニ付與スベシ

第十條 管内ニ於テ住所ヲ轉ゼントスルキハ速カニ其旨届出ベシ

第十一條 内務省免許ノモノニシテ他府縣ヘ轉住セントスルキハ其  
旨届出ベシ

第十二條 本縣免許ノモノ他管下ヘ轉住セントスルキハ其旨届出免  
狀返納スベシ

但シ產婆營業者タルノ證明書ヲ請フキハ附與スベシ

第十三條 水火盜難又ハ過誤等ニ由リ免狀ヲ毀損亡失シ若クハ族籍  
姓名ヲ變更シタルキハ其事由ヲ詳記シ願出更ニ免狀ヲ受クベシ

第十四條 廢業若クハ死亡シタルキハ其旨届出免狀ヲ返納スベシ

第十五條 本業ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アルキハ營業ヲ停止又ハ  
禁止スルコトアルベシ

第十六條 官許ヲ得ズシテ產婆業ヲ營ミタルモノ及ビ本則第六條ニ  
違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓  
九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 本則第七條第八條第九條ニ違背シタルモノハ二日以上五  
日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

(明治二十年十月十四日縣令第百號ヲ以テ本  
則第十六條第十七條右ノ通り改正追加セラル)

(書式)

死 産 證

住所 族籍	何府何國何郡何村番地 <small>寄留ナレ</small> 何府縣 <small>士</small> 族平民
戶主職業姓名	農商或ハ何々何之誰
妻妾或ハ長次女姊妹等姓名	妻或ハ何々何之誰
年 齡	何年何ヶ月
公生 男女ノ別	(公生男兒)或ハ(私生男兒)
私生 男女ノ別	(公生男兒)或ハ(私生男兒)
受 姓 年 月	明治何年何月
死 躰 分 娩 年 月 日	明治何年何月何日
原 因	何々

右之通候也

年 月 日

何郡何町村何番地

産 婆

氏 名 印

何郡何町村戸長宛

○第四款 鍼灸治營業取締規則

○静岡縣甲第七十壹號

明治十八年七月九日(公布)

鍼灸治營業取締規則別紙之通相定候條此旨布達候事

但シ明治十年本縣甲第九十二號布達中鍼灸治心得ハ廢止ス

(別紙) ○鍼灸治營業取締規則

第一條 鍼灸又ハ灸治ノ業ヲ營マントスル者ハ別紙書式ノ願書ニ履歴書及師家若クハ同業二名以上ノ保證書ヲ添ヘ願出免許鑑札ヲ受クベシ

但シ他府縣ヨリ轉籍若クハ寄留ノ者該管廳ノ證明書ヲ添フレバ本文ノ保證書ヲ要セズ(明治十八年甲第百三號) 布達ヲ以テ但書追加ス

第二條 鍼灸ハ人ヲ勸メ強テ施術スベカラズ且ツ患者既ニ醫師ノ治療中ナルモハ其醫師ノ指圖ヲ受クルニアラザレバ施術スベカラズ

第三條 鍼灸治營業者ニシテ藥劑ヲ與ヘ又ハ藥法ヲ指示スルヲ許サズ

第四條 鍼灸治營業者他管下ヘ轉住スルカ又ハ廢業死亡シタルモハ其旨届出鑑札ヲ返納スベシ又管内ニ於テ轉住スルモハ其旨届出ツベシ但シ他管下ヘ轉住セントスルモノニシテ從來營業者タル證明書ヲ請フ時ハ之ヲ付與スベシ(明治十八年甲第百三號) 布達ヲ以テ但書追加ス

第五條 改姓名スルカ又ハ鑑札毀損亡失スルモハ其事由ヲ具シ鑑札

書換又ハ下ケ渡ヲ願出ベシ

第六條 本業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルキハ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルベシ

第七條 本則第三條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八條 本則第一條第二條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

(書式ハ略ス)

(明治二十年十月十四日縣令第百壹號ヲ以テ本則第七條及第八條右ノ通り改正追加セラレタリ)

○第五款 入齒齒抜口中療治接骨從來營業者取締規則

明治十八年七月九日(公布)

○静岡縣甲第拾號 入齒齒抜口中療治接骨從來營業者取締規則左之通相定候條此旨布達候事

○入齒齒抜接骨從來營業者取締規則

第一條 此規則ハ明治十八年七月本縣甲第六十五號及甲第六十六號布

達ニ據リ鑑札ヲ得タル者ニ施行ス

第二條 入齒營業者ハ入齒ノ外他ノ術ヲ施スヲ許サズ

第三條 齒抜營業者ハ拔齒ノ外入齒術ヲ施スヲ得ルト雖モ其他ノ術ヲ施スヲ許サズ

第四條 口中療治營業者ハ齒齧破血齧齒療治及ヒ入齒拔齒ノ術ヲ施スヲ得ルト雖モ其他ノ術ヲ施スヲ許サズ

第五條 接骨營業者ハ整骨術ヲ施スモノニシテ副木綱帶ヲ除ク外醫術器械ヲ用ユルヲ許サズ

第六條 各營業者ハ患者既ニ醫師ノ治療中ナルキハ其醫ノ承諾ヲ受クルニ非レバ施術ス可カラズ

第七條 各營業者ハ藥法ヲ指示シ或ハ藥劑ヲ用ユルコトヲ許サズ但シ止ヲ得ザル場合ニ限り明治十三年第壹號布告藥品取扱規則

第二類第三類ノ藥品ヲ除クノ外ハ外用ニ限り用ユルコトヲ得

第八條 他管下ハ轉籍寄留スルカ又ハ廢業死亡シタルキハ其旨届出鑑札ヲ返納スベシ又管内轉居之節ハ其旨届出ツベシ

但他管下へ轉住營業セントスル者ハ從來營業ノ證明書ヲ願受ベシ

第九條 改姓名スルカ又ハ鑑札毀損シ或ハ亡失スルキハ其事由ヲ詳

記シ鑑札書換又ハ下付ヲ願出ベシ

第十條 本業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルキハ營業ヲ停止又ハ

禁止スルコトアルベシ

第十一條 本則第七條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留

ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條 本則第六條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留

ニ處シ又ハ五拾錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

(明治二十年十月十四日縣令第百二號布達ヲ以テ本則第十一條及第十二條右ノ如ク改正追加セラル)

○第四章 藥種商及藥舖

○第一款 藥種商規則

○静岡縣甲第拾貳號

明治十七年二月六日(公布)

藥種商規則左之通り相定メ來ル三月一日ヨリ施行ス此旨布達候事

○藥種商規則

第一條 藥種商ハ諸藥品ノ賣買ヲ業トス然レニ調劑スルヲ許サズ

第二條 明治十三年一月第一號公布藥品取扱規則第二類第三類ノ藥品ハ封緘ヲ開キ賣買スルヲ許サズ

第三條 新ニ藥種商ヲ營マントスル者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ醫師又ハ藥舖保證書ヲ添へ願出鑑札ヲ受クベシ

第四條 婦女又ハ十六歳未満ノ者藥種商ヲ營マントスルキハ主管人ヲ置キ第三號書式ノ願書ニ第四號書式ノ醫師又ハ藥舖保證書ヲ添へ願出鑑札ヲ受クベシ

但シ藥舖又ハ藥種商ノ許可ヲ得タル者ヲ主管人トナスルハ第四號保證書ヲ要セス

第五條 主管人ハ營業者ノ家ニ同居スル者及ビ營業者ノ家屋ヲ距ル一里以内ニ住居スル者ニ限ルベシ

但シ藥舖藥種商營業中ノ者ハ主管人トナルヲ得ザルハ勿論其他ノ者ト雖モ一人ニシテ二人以上ノ主管人トナルヲ得ズ

(明治十七年甲第百二十年號布達ヲ以テ右但シ書前ノ如ク改正セラレタリ)

第六條 第四條ニ依リ免許鑑札ヲ得タル者十六年以上ノ年齢ニ至リ  
主管人ヲ解クキハ第二號書式ノ保證書ヲ添へ届出ベシ

(明治十七年甲第百二十號布達ヲ以テ本條ヲ增加シ元  
第六條ヲ第七條ニ以下順次繰リ下ケト相成リタリ)

第七條 藥種商ノ鑑札ヲ得タル者ハ別紙雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クベシ

第八條 鑑札毀損又ハ遺失スルキハ其理由ヲ詳記シ願出更ニ鑑札ヲ  
受クベシ

第九條 改姓名スルキハ鑑札書換ヲ願出管内轉居スルキハ其旨届出  
ベシ

第十條 死亡又ハ廢業若クハ他管下へ轉籍寄留スルキハ鑑札ヲ返納  
スベシ

第十一條 本則第一條第三條第四條ニ違背シタル者ハ三日以上十日  
以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條 本則第二條第五條第六條ニ違背シタルモノハ一日以上三  
日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 本則第七條ニ違背シタルモノハ五十錢以上五十錢以下ノ科

料ニ處ス

(明治二十年十月十三日縣令第九十九號布達ヲ以  
テ本則第十一條以下右ノ通り追加改正相成ル)

(別紙書式ヲ畧ス)

○第二款 藥舖規則

○静岡縣甲第七拾三號

明治十八年七月十一日(公布)

明治十四年本縣甲第七拾四號布達藥舖規則左ノ通改正候條此旨布  
達候事

○藥舖規則

第一條 藥舖ハ藥舖開業免狀ヲ得タルモノニ限ル

第二條 藥舖開業免狀ヲ得ント欲スルモノハ明治十四年五月本縣甲第  
七十三號布達ニ依ルベシ

第三條 内務省免許ノモノ他府縣ヨリ本縣管内ニ來リ營業セントス  
ルキハ免狀寫並ニ履歷書相添へ其旨届出ベシ

第四條 他府縣免許ノモノ本縣管内ニ來リ開業セントスルキハ其管  
應ノ證明書及履歷書相添願出更ニ本縣ノ免狀ヲ受クベシ

第五條 藥舖ハ藥種ノ賣買ヲ業トシ且ツ醫師ノ處方箋ニ據リ調劑ス

ルコトヲ得ルト雖モ自己ノ意見ヲ以テ調劑スルコトヲ許サズ  
第六條 處方箋中若シ藥名不分明ナルカ又ハ其用量不相當ナリト認

ムルキハ必ズ之ヲ處方主ニ質シ然ル后チ調劑スベシ

第七條 處方箋ハ之レヲ保存シ置キ臨時ノ點檢ニ供スベシ

但シ患者若シ處方箋ヲ所持セントスルキハ劇毒藥ノ配伍ナキモ

ノニ限り之レヲ帳簿ニ謄寫割印シ返付スベシ

第八條 處方箋中患者及處方主ノ宿所姓名年月日並ニ處方主ノ捺印

ナキモノハ調劑スベカラズ

第九條 姓名ヲ改メタルキハ速カニ免狀書換願出ベシ

第十條 內務省免許ノモノ管内外ヘ轉籍又ハ寄留セントスルキハ其

旨届出ベシ

但シ廢業死亡ニ係ルモノハ免狀返納スベシ

第十一條 本縣免許ノモノ管内ニ於テ轉住セントスルキハ其旨届出

ツベシ

第十二條 前條免許ノモノ他管下ヘ轉住セントスルキ及ヒ廢業又ハ

死亡シタルキハ其旨届出免狀返納スベシ

但他管下ヘ轉住セントスルモノハ藥舖營業者タルノ證明書ヲ請  
フキハ之レヲ付與スベシ

第十三條 水火盜難過誤等ニ由リ免狀ヲ毀損亡失シタルキハ其事由

ヲ詳記シ願出更ニ免狀ヲ受クベシ

第十四條 本業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルキハ營業ヲ停止又

ハ禁止スルヲアルベシ

第十五條 官許ヲ得ズシテ藥舖ノ業ヲ營ミタルモノ及ヒ本則第五條

ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上

壹圓九十五錢以上ノ科料ニ處ス

第十六條 本則第六條第八條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下

ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

(明治二十年十月十三日縣令第九十八號ヲ以テ本  
則第十五條以下右ノ通り更ニ改正追加相成ル)

◎第三款 無印紙賣藥自用者罰令

◎大藏省令第三十一號

明治十九年十月二十一日(公布)

●第六編 第四章 第四款 溫泉場取締規則

賣藥ダイヤク自用者ニ於テ無印紙ムインシノ賣藥ヲ買受テ預置アツカリナキ又ハ所持ショクスルヲ不得犯ス者ハ金壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○第四款 溫泉場取締規則

○靜岡縣甲第三號

明治十七年一月十五日(公布)

溫泉場取締規則左ノ通相定本年二月一日ヨリ施行候條此旨布達候事  
但シ當分ノ内伊豆國賀茂郡熱海村溫泉場同國君澤郡修善寺村溫泉場ニ限リ實施候事

○溫泉場取締規則

第一條 溫泉オンセンアル町村ニ於テハ其人民協議キヨウギノ上溫泉場ノ區域ヲ定メ所屬警察署又ハ分署ヲ經由シテ届出認可ヲ受クベシ  
但シ區域ヲ變更セントスルモ亦同シ

第二條 溫泉宿營業者及ヒ溫泉所有主ハ(引湯トモ)一溫泉場區域毎ニ一組合トナシ正副取締ヲ撰定シ規約ヲ定メ所屬警察署又ハ分署ヲ經由シテ届出ベシ

第三條 取締ハ其組合中ノ湯數字番泉名湯元引所有主等ヲ取調ヘ前條

ノ手續ヲ以テ出ベシ

但シ湯元引湯ヲ賣買讓與又ハ湯數増減アルモ亦同シ

第四條 溫泉場區域内ニ於テ溫泉ヲ試堀セントスルモノ又ハ新ニ發見シ之ヲ使用セントスル者ハ其町村人民協議ノ上第一條ノ手續ヲ以テ届出認可ヲ受クベシ

第五條 從來ノ溫泉ヲ廢棄セントスルモ第二條ノ手續ヲ以テ届出ベシ  
第六條 第四條第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ故障スル事ヲ得ズ  
第七條 溫泉場區域内ニ於テ新規池井溝渠等ヲ穿ツ爲メ地形ヲ變換

セントスルモハ所屬警察署又ハ分署へ申出見分ヲ受クベシ  
第八條 溫泉浴室ハ清潔ヲ旨トシ汚穢物等ヲ洗滌ス可カラズ  
第九條 溫泉ノ樋管等ハ不潔ナキ様注意シ破損所在ルモハ速カニ修理スベシ

第十條 此規則ニ違背シタルモノハ違背罪ヲ以テ罰セラルベシ

●第五章 獸肉及屠獸場

○第一款 馬肉販賣停止違背者罰令



●第六編 第五章 第一款馬肉販賣罰令第二款獸肉販賣規則

三百五十八

○縣令第二十一號 明治二十一年三月二十二日(公布)  
 當分ノ内馬肉ノ販賣ヲ停止ス違フ者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○第二款 獸肉販賣取締規則

○縣令第百拾六號

明治二十年十一月十八日(公布)

明治十八年十一月十二日 本縣甲第百八號布達中獸肉販賣取締規則左ノ通り改正ス

○獸肉販賣取締規則

- 第一條 本則ハ食料ニ供スル獸肉(牛馬羊豕)ヲ販賣スル者ニ施行ス
- 第二條 獸肉ヲ販賣セントスルモノハ居行商ノ別ナク取締連署戸長ノ與印ヲ受ク所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許鑑札ヲ受クベシ
- 第三條 住所ヲ轉シ姓名ヲ改メ又ハ鑑札失損シタルモハ前條ノ手續ヲ以テ鑑札書換若クハ再下付ヲ請フベシ
- 但廢業死亡ニ係ル者ハ鑑札相添ヘ親族又ハ取締ヨリ其旨届出ベシ
- 第四條 獸肉販賣業者ハ左ノ標札ニ所轄警察署又ハ分署ノ捺印ヲ受ク之ヲ居商ハ店頭ニ行商ハ容器ノ見易キ部分ヘ掲グベシ

(明治二十一年三月廿二日縣令第二十號ヲ以テ本條右ノ通り改正セラレ)

□ 獸肉販賣營業 屋號 姓名 豎曲尺三尺 横同九寸 木質適宜

第何號	住所	豎曲尺
獸肉	姓名	七寸 木質適宜
行商	年齢	横同二寸

第五條 販賣ニ供スル獸肉ハ必ず許可ヲ受タル屠獸場ニ於テ屠殺シタルモノニ限ルベシ

第六條 販賣及行商者ハ其都度卸賣人ヨリ月日並ニ卸賣人ノ姓名ヲ記シ證印シタル證書ヲ受ク之ヲ所持スベシ

第七條 不食ノ肉ハ勿論他ノ獸肉ヲ混シタル者ハ決シテ販賣スベカラズ

第八條 販賣ニ供スル獸肉ヲ他管下ヨリ買入レタルモハ其證ヲ添ヘ

所轄警察署又ハ分署へ申出認可ヲ受クベシ  
第九條 營業者ハ便宜組合ヲ定メ毎組正副取締各一人ヲ置キ規約ヲ設ケ所轄警察署又ハ分署へ申出認可ヲ受クベシ

(明治二十一年縣令第二十號ヲ以テ本縣警察署ノ下ハ又ハ分署ノ四字ヲ右ノ如ク追加セラル)

但シ取締當攤者不都合ナリト認めルルハ何時タリモ所轄警察署又ハ分署ニ於テ改撰ヲ命ズルコトアルベシ

第十條 組合ニ關スル費用支辨方ハ營業者ノ協議ヲ以テ定ムベシ  
雖モ新タニ開業スル者ニ不當ノ出金ヲ促シ又ハ組合中種々ノ名義ヲ以テ謂レナク集金スルヲ許サズ

第十一條 組合ニ於テ屠獸場持主ト特殊ノ約定ヲ爲シタルハ双方連署所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クベシ

第十二條 賣肉ハ臨時警察官吏ヲシテ検査セシムルコトアルベシ

第十三條 本則第二條第三條(但書ヲ除ク)第七條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 本則第五條第六條第八條第十條ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

○第三款 屠獸場取締規則

○縣令第百十五號

明治二十年十一月十七日(公布)

明治十八年十一月本縣甲第百八號布達中屠獸場取締規則左ノ通り改正ス但シ從前許可シタル屠場ハ來ル明治二十一年二月廿八日限り使用ヲ差止候條本令ニ準據シ更ニ出願スベシ

○屠獸場取締規則

第一條 此規則ニ於テ屠獸場ト稱スルハ諸人ノ依頼ニ應ジ牛馬羊豕ヲ屠殺スル所ヲ云フ

第二條 屠獸場ハ警察署分署ヲ距ル三十丁以内ノ地ニ於テ静岡警察署ハ二ヶ所其他ノ部内ハ一ヶ所ヲ限り之ヲ許可ス

但シ適當ノ地無之ハ三十丁以外ト雖モ許可スルコトアルベシ  
第三條 屠獸場ヲ設クトスル者ハ人家ヲ距ツル六十間以上ニシテ飲用水ニ障害ナキ地ヲ擇ビ近隣地主ハ願人借地所々有主連署ノ願書ニ屠獸

屠獸場明細圖ヲ添へ願出許可ヲ受クベシ  
但シ落成ノ上所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クルニ非ザレバ開業スルヲ得ズ

第四條 屠獸場ヲ移轉シ若クハ讓渡ヲ爲シトスルキハ前條ノ手續ニ依リ讓渡ハ近隣地主ノ同意ヲ要セズ願出ベシ  
ト雖モ凡テ授受ノ双方調印スベシ

第五條 轉居代替リ姓名ハ五日以内ニ届出ベシ

第六條 廢業者ハ地主(借地ナレバ)連署ヲ以テ五日以内ニ届出ベシ

第七條 前四條ノ願届ハ都テ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經由スベシ

第八條 屠獸場ハ左ノ如ク構造スベシ

一 屠場ノ建物ニハ屋根ヲ設ケ敷地ノ周圍ニハ板塀又ハ竹垣等ヲ作ルベシ

二 場内ニハ立會官吏並ニ屠殺依頼者等ノ控所ヲ設クベキ者トス

三 屠獸場ハ五頭以上ニ使用シテ差支ナキ様之ヲ建設スベシ

四 居室ノ周圍ハ厚キ板羽目ヲ作り以テ洗滌ニ便ニスベシ

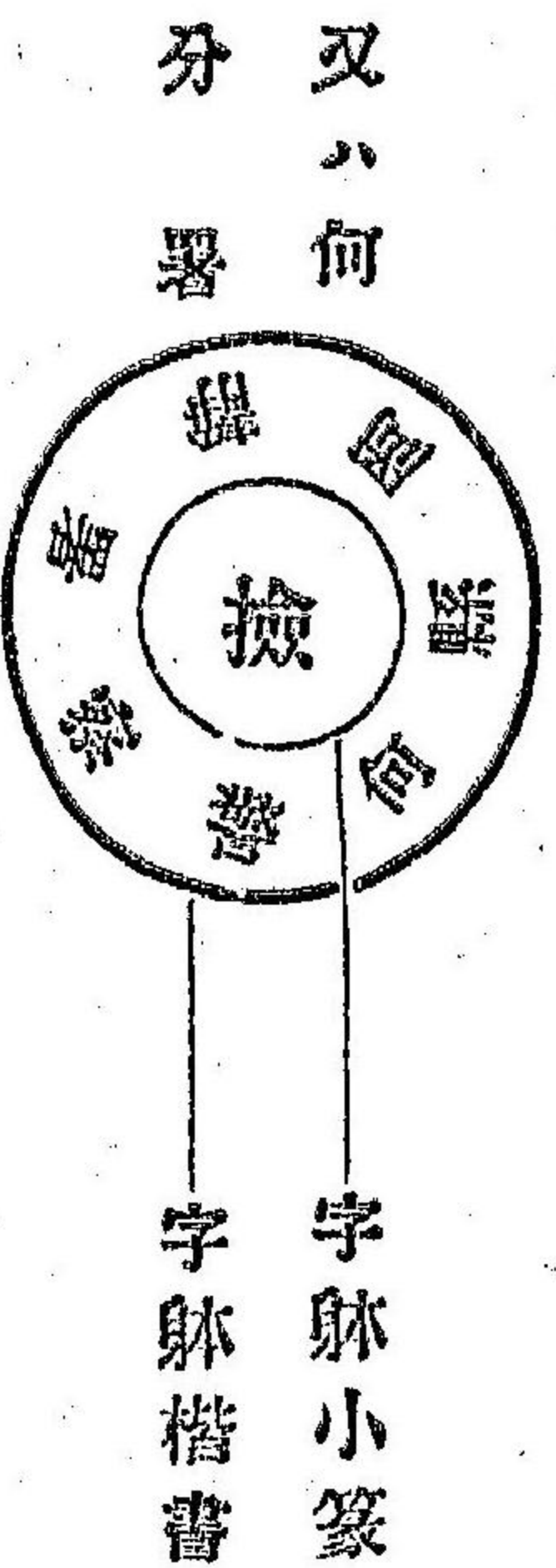
五 居室内地盤及ヒ溝ハ石疊煉瓦疊(其繼目ハセメント若クハ漆喰ヲ以テ接合スベシ)若クハ漆喰叩キト爲スベシ

六 血溜洗水溜等ハ其血水ヲ受容スルニ充分ナラシメ且不透洩質(モレトフ)ノモノヲ以テ構造シ屠室外ニ設クベシ

第九條 屠獸場ノ構造ヲ變更セントスルキハ所轄警察署又ハ分署へ願出認可ヲ受ケ落成ノ上ハ更ニ其検査ヲ經ベシ

第十條 屠獸場セントスルキハ所轄警察署又ハ分署へ申出警察官吏ノ臨場ヲ請フベシ

第十一條 屠殺シタル牛馬羊豕ニハ四足ノ爪又ハ適宜ノ所へ警察官吏ニ於テ左ノ離形ノ烙印若クハ黒印ヲ押捺スベシ(明治廿一年四月五日縣令第二十六號ヲ以テ本條爪ノ下右ノ如ク追加改正相成ル)



第十二條 警察官吏ニ於テ病獸又ハ肉質不良ト認ムルキハ臨時醫師ヲシテ検査セシメ其販賣ヲ差止ムルコトアルベシ

第十三條 屠獸ノ手数料ハ牛馬羊豕各一頭ニ付之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ屠獸場内見易キ所ニ揭示シ置ベシ

第十四條 屠獸場ハ常ニ清潔ニ掃除スベシ

第十五條 汚穢物等ハ屠殺ノ都度直チニ一定ノ場所ニ取片付ヲ爲シ屠室及ビ溝筋ハ屠殺終リタル毎ニ之ヲ洗滌スベシ

第十六條 屠獸場ニハ左ノ標札ヲ入口ニ掲ゲ置クベシ

屠獸場	持主
姓	名
豎曲尺三尺五寸 横同壹尺二寸 木質適宜	

第十七條 獸肉販賣人ト特殊ノ約定ヲ爲シタルキハ双方連署所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クベシ

第十八條 正當ノ事由ナクシテ屠殺ノ依頼ヲ拒絕シ又ハ手数料ノ外別ニ金錢ヲ要求スベカラズ

第十九條 本則第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ二十錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
第二十條 第九條第十條第十五條第十八條ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第六章 墓地及埋葬

第一款 墓地及埋葬取締規則

明治十七年十月四日(布告)

◎太政官第貳拾五號 墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

◎墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クベキモノトス

第三條 死骸ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非ザレバ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ズ

但別段ノ規則アルモノハ此限リニアラズ

第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非ザレバ埋葬又ハ火葬ヲ

ナスコトヲ得ズ

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クベシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非ザレバ埋葬又ハ火葬ヲナサシムベカラズ又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非ザレバ改葬ヲナサシムベカラズ

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フベシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クベシ其許可ヲ得ズシテ建設シタルモノハ之ヲ取除カシムベシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ズ

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ク内務卿ニ届出ベシ

(參照) ◎墓地及埋葬取締規則違犯者處分方  
◎太政官第八十二號 明治十七年十月四日(布告)  
今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違

背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スベシ此旨相達候事

○第二款 墓地及埋葬取締規則 明治十八年三月五日(公布)

○静岡縣甲第拾六號 明治十七年太政官第貳拾五號布達墓地及埋葬取締規則第八條ニヨリ細則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

(別紙) ◎墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地ハ從前許可シタルモノニ限ル但己ムコトヲ得ザル事情アリテ之ヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ其地ノ圖面ヲ添ヘ戶長ノ與印ヲ受テ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ本廳ニ願出ベシ(明治十九年二月甲第二十二號ヲ以テ本條右ノ通り改正相成ル)

(參照) 静岡縣丙第五十九號 明治十九年六月一日(公布)

(明治十八年三月)本縣甲第十六號布達墓地及埋葬取締規則ニ據リ墓地ヲ新設シ又ハ取廣メントスルモノハ自今一戸ニ付凡ソ二坪以内ノ割ヲ以テ出願セシムベシ)

第二條 前條ノ墓地ト雖モ第三條ニ抵觸スル場所ハ後來埋葬スルコ

トヲ得ズ(明治十八年甲第六十七號布達ヲ以テ本條ヲ挿入シ元第二條ヲ三條トシ以下順次繰下ケ相成ル)

但己ムヲ得ザル事情アルモノハ第一條但書ノ手續ニ依リ出願スベシ 編者ノ注意(左ノ條目ニ國道縣道大川ニ沿ハストノミアレド現今ニ到テハ然道線路ノ如キハ無論該部分ニ包含スルモノト思料ス)

第三條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道大川ニ沿ハズ人家ヲ隔ルコト凡

ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障害ナキ地ヲ撰ムベシ

第四條 虎列刺發疹瘰癧扶斯及痘瘡患者ノ死屍ハ埋葬地ノ内ヲ區劃シ

第一條但書手續ニ據リ縣令ノ許可ヲ得タル場所ニアラザレバ埋葬スルヲ得ズ

第五條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ニ非ザル地トノ境界ヲ云フ)ニハ樹木ヲ栽エ其墓地内ニ壹丈以

上ノ樹木塙垣ヲ存スベカラズ

但從前ヨリ現存スルモノハ此限りニアラズ

第六條 火葬場ヲ新設セントスルハ人家稠密ノ地ヲ隔ル百貳拾間

以上ニシテ風上ニ位セザル地ヲ撰ミ第一條但書ノ手續ニ依リ願出ベシ

第七條 火葬地ハ所轄警察署ノ指圖ヲ受ケ火爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防

グノ裝置ヲナシ且周圍ニ塙垣ヲ設クベシ

但シ山林原野及ヒ村落等ニシテ人家稀疎(マシコシ)ノ場所ナルトキハ此限ニアラズ

第八條 墓地ヲ隔ル六十間火葬場ヲ隔ル百二十間以内ノ地へ人家ヲ新設スルヲ許サズ

但シ事情不得止者ハ所轄警察署又ハ分署へ願出許可ヲ受クベシ

(明治十九年二月二十三日本縣甲第二十二號布達ヲ以テ本條更ニ追加セラレタルニ付以下順次繰下ケコト)

第九條 墓地火葬場ハ種族宗旨ヲ別タズ其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ

其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ埋火葬スルヲ得其

從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラズ

但シ死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋

葬スルモノトス

第十條 墓地火葬場ニハ必ズ管理者ヲ置キ其姓名ハ所轄警察署又ハ

分署及ビ戸長役場ニ届ケ置クベシ

第十一條 墓地火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及ビ修繕ヲ怠ルベカラズ

第十二條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書

ヲ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クベシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルハ醫師ノ檢案書ヲ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クベシ  
妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クベシ

變死ニ係ルハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クベシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クベシ

火葬ノ遺骨ヲ墓地ニ埋葬セントスルモノハ別ニ證明書ヲ受クベシ

(明治十八年甲第六十七號布達ヲ以テ本項追加セラル)

第十三條 傳染病者ノ死屍ハ廿四時間ヲ竣ツテ要セス速カニ埋葬又ハ火葬スベシ

(明治十八年甲第四百四號布達ヲ以テ本條ヲ追加シ元第十二條以下順次繰下ケト相成ル)

第十四條 戸長ハ前條ノ屆書又ハ檢案書若クハ證書ヲ領收スルニアラザレバ埋火葬ノ認許證及ヒ證明書ヲ與フベカラズ

(明治十八年甲第六十七號布達ヲ以テ本條但書トモ認許證ノ下五文字挿入セラル)

但シ認許證及ヒ證明書ハ別紙書式ニ據リ付與スルモノトス

第十五條 前條ノ屆書等ハ取纏メ保存スベシ尤モ行旅人等總テ滞留中ニ係ル分ハ本人現住地戸長ヘ送付スベシ

第十六條 改葬ヲナサントスル者ハ戸長衛生委員ノ與印及ヒ郡長ノ檢印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出ベシ

第十七條 火葬ハ日没后ヨリ日出前迄ヲ限リトス

但シ傳染病者ノ死屍ハ此限リニ非ズ

第十八條 擴穴ノ深サハ六尺(傳染病者ノ死屍ヲ埋葬スルハ八尺)以上タルベシ若シ土地ニ依

リ六尺以上ニ至リ難キトキハ戸長衛生委員ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ申出指揮ヲ受クベシ

(明治十八年甲第三十三號布達ヲ以テ本條中若シ以下數字ヲ追加セラル)

第十九條 碑表ヲ建設セントスル者ハ其願書ニ位置ヲ詳記スル圖面

及ヒ碑文案(歐文梵語等刻スルモ)添ヘ管理者又ハ地主連署戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ヘ願出ベシ

但シ死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及ビ生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止マリ誌銘傳贊等ヲ刻セザル墓標ハ此限リニ非ズ  
 第二十條 管理者ハ其都度認許證又ハ證明書ヲ領收シ之ヲ取纏メ毎三ヶ月所轄警察署又ハ分署ノ檢閲ヲ受ケ戶長役場ヘ返戻スベシ

(明治十八年甲第六十七號布達ヲ以テ本條中認許證ノ下五文字ヲ挿入ス)

第二十一條 管理者ハ墓地ノ繪圖及ビ墓籍ヲ調製シ置クベシ

第二十二條 第一條第二條第四條第六條第七條第八條第十二條第十五條第十六條第十七條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ五十錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十三條 第五條第九條第十條第十八條第十九條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條 第十一條第二十條第二十一條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス  
(明治二十年十月縣令九十六號布達ヲ以テ本則二十二條以下改正追加セラル)

認許證書式

(○印ハ朱書)

<p>埋(火)葬認許證</p> <p>何府縣何國何郡何町村番地 寄留ナレバ寄留</p> <p>何府縣華士族 寄留ナレバ寄留</p> <p>姓名 職業</p> <p>何年月日時病死又ハ死胎 分娩 年 齡</p>		<p>證明書々式</p> <p><small>(明治十八年甲第六十七號布達ヲ以テ此書式追加ス)</small></p>	
<p>證明書</p> <p>何府縣何國何郡何町村何番地 寄留ナレバ寄留</p> <p>何府縣華士族 寄留ナレバ寄留</p> <p>姓名 年 齡</p> <p>何年月日時病死又ハ死胎 分娩 年 齡</p> <p>右ハ何地ニ於テ火葬ノ上遺骨ハ何地墓地ヘ埋藏ナシタル旨實子(父母又ハ親戚等)何某ヨリ申出ニ付火葬認許證ト共ニ此證明書ヲ付與スルモノ也</p>		<p>靜岡縣 何郡何町村 戶長姓名 印</p> <p>裏面認許證ニ同シ</p>	



認許證記載例

- 一 戸主ニ非ザレバ何其父母兄弟弟妻子姉妹等ト肩書スベシ
- 一 死胎分娩ハ姓名年齢ヲ省キ何某妻妾又ハ長二女姉妹等誰死産兒ト記スベシ
- 一 囚人ハ何年月日時某監獄ニテ病死又ハ刑死變死ト記スベシ
- 一 病死ノモノハ認許證ヘ其病名ヲ記入スベシ(明治十八年甲第六十七號) (布達ヲ以テ本項追加ス)

現 内閣諸省 諸罰則禁令類聚上卷終  
 行 靜岡縣

現 内閣諸省 諸罰則禁令類聚下卷  
 行 靜岡縣

第七編 内閣諸省禁令

第一章 禁令布告ノ部

◎ 第一款 菊御紋章禁止

◎ 太政官

明治元年三月廿八日(布告)

一 菊御紋章

一 提燈又ハ陶器其外賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何ノ儀ニ候以來右之類御紋ヲ私ニ附候事急度可禁止旨被仰出候事  
 但シ御用ニ付是迄被免之シ分モ一應伺出可申事

(參看)

◎ 太政官

明治二年八月廿五日(布告)

社寺ニテ是迄菊御紋用非來者不少候處今般御改正相成社ハ伊勢八幡上下加茂等寺ハ泉涌寺般舟院等ノ外ハ一切被差止メ候旨被仰出候事 但格別由緒有之社寺ハ由緒ヲ以テ可親出候事

(參看)

◎ 太政官第百五十九號

明治四年六月十七日(布告)

菊御紋禁止ノ儀ハ兼而御布告有之候處猶ホ又向後由緒ノ有無  
ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤モ御紋ニ紛敷品相用候儀モ同  
様不相成候條相改可申事

但從來諸社ノ社願ニ於テ相用來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出事  
(參看) ◎太政官 明治七年四月二日(公達)

社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治二年己巳八月布告候處自今  
官幣社社殿ノ粧飾及幕提燈ニ限リ菊御紋相用不苦候條此旨管内官  
幣社ヘ可相達事

◎一般社寺ニ於菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告ノ趣モ候  
處布告前社殿寺堂ニ粧飾シタル分ニ限リ其儘存シ置キ苦シカラズ  
候此旨相達候事 (明治十二年五月廿二日太政官第二十三號(公達))

◎第二款 富興行嚴禁ノ布告

◎太政官 明治元年十二月二十三日(布告)

富興行之儀ハ兼而御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名ト  
シ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來洩季之弊風候伴

之利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之  
カ爲メニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以テ外ノ事ニ候斯御一  
新ノ折柄右様之所業殊ニ御趣意ニ相反リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

◎第三款 人身禁賣買並奉公年限ノ布告

◎太政官第二百九十五號 明治五年十月(布告)

一 人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ虐使  
致候ハ人倫ニ背キ有マシキ事ニ付古來制禁ノ處從來年期奉公  
等種々ノ名目ヲ以テ奉公住爲致其實賣買同様ノ所業ニ至リ以  
テ外ノ事ニ付自今可爲嚴禁事

一 農工商ノ諸業習熟ノ爲メ弟子奉公爲致候儀ハ勝手ニ候得共年  
限滿七年ニ過ク可カラザル事

但双方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルベキ事  
一 平常ノ奉公人ハ一ヶ月宛タルベシ尤モ奉公取繼候者ハ證文可相改事  
一 娼妓藝妓等年季奉公人一切解放可致右ニ付テハ貸借訴訟總テ不取上候事

右同伴心得

◎司法省第二十二號

明治五年十月(布達)

- 本月二日太政官第二百九十五號ニ而被仰出候次第ニ付左ノ件々可心得事
- 一 人身ヲ賣買スルハ古來ノ制禁ノ處年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實賣買同様ノ所業ニ至ルニ付娼妓藝妓等雇入レノ資本金ハ賍金ト看做ス故ニ右ヨリ苦情ヲ唱フル者ハ取糺ノ上其金ノ全額ヲ可取揚事
  - 一 同上ノ娼妓藝妓ハ人身ノ權利ヲ失フ者ニテ牛馬ニ異ナラズ人ヨリ牛馬ニ物ノ返辨ヲ求ムルノ理ナシ故ニ從來同上ノ娼妓藝妓へ借ス所ノ金銀並ニ賣掛滯金等ハ一切責ル可ラザル事  
但本月二日以來ノ分ハ此限リニ非ズ
  - 一 人ノ子女ヲ全談上ヨリ養女ノ名目ニ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲナサシムルモノハ其實際上則チ人身賣買ニ付從前今後嚴重ノ處置ニ及ブベキ事

◎太政官第二百二十八號

◎第四款 人身ノ書入嚴禁ノ布告

明治八年八月(布告)

金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限リ候ハ勿論ニ候處地方ニ寄リ間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ趣右ハ嚴禁ニ候條此旨布告候事

但期限ヲ定メ工作使役等ノ勞力以テ負債ヲ償ハ此限ニアラズ

◎第五款 復讐嚴禁ノ布告

◎太政官第三十七號

明治六年二月(布告)

人ヲ殺スハ國家ノ大禁ニシテ人ヲ殺ス者ヲ罰スルハ政府ノ公權ニ候處古來ヨリ父兄ノ爲メニ讐ヲ復スルヲ以テ子弟ノ義務ト爲スノ風習アリ右ハ至情不得止ニ出ルト雖モ畢竟私憤ヲ以テ大禁ヲ破リ私義ヲ以テ公權ヲ犯ス者ニシテ固ヨリ擅殺ノ罪ヲ免レズ加之甚シキニ至リテハ其事ノ故誤ヲ問ハズ其理ノ當否ヲ顧ミズ復讐ノ名義ヲ挾ミ濫リニ相構害スルノ弊往々有之甚以テ不相濟事ニ候依之復讐嚴禁被仰出レ候條今後不幸至親ヲ害セラル、者於有之ハ事實ヲ詳ニシ速カニ其筋ヘ可訴出候若シ其儀ナク舊習ニ沈ミ擅殺スルニ於テハ相當ノ罰科ニ可處候條心得違無之様可致事

◎第六款 帶刀禁止ノ布告

◎太政官第三十八號

明治九年三月(布告)

自今大禮服用並ニ軍人及ヒ警察官吏等成規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告候事 但違背ノモノハ其刀可取上事

◎第七款 實印附託禁令

◎太政官第九十七號

明治五年七月(布告)

人民實印ノ儀ハ諸事證據ニ相成大切ノ品ニ候處妄ニ他人ヘ相預ク候者モ有之ニ付間々奸詐ノ訴訟差起リ以テ外ノ事ニ候以來實印相預候儀固ク被禁候條萬一心得違ノ者有之候節ハ預リ人共屹度可及處置候事

◎第八款 日本形船舶五百石以上製造禁止

◎太政官第十六號

明治十八年七月八日(布告)

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ其製造ヲ禁止ス右奉 勅旨布告候事

◎第九款 濱名湖水底電線布設ノ件ニ付禁令

◎太政官第二十號

明治十五年九月十二日(布告)

静岡縣下遠江國濱名湖ニ別紙圖面朱線ノ通り電信水底線布設候條線路標木ヨリ南北各十間以内ニ於テ諸船停碇繫留及投錨ハ勿論漁業海草採取土砂堀取等禁止ス(別紙圖面ハ略ス) 右 布達候事

◎第二章 禁令布達ノ部

◎第一款 陸軍徽章服帽常人賣用 不相成ノ布達

◎陸軍省第三百一十一號

明治七年三月(布達)

陸軍徽章有之服帽等其職ニ非ズシテ私ニ着用賣買共一切不相成旨 辛未十一月及布達置候處先般服制改定候ヘ共猶ホ從前布達ノ通賣買着用共不相成候此旨更ラニ布達候事

◎第二款 海軍徽章服帽常人賣用 不相成ノ布達

◎海軍省第一號

明治七年三月(布達)

海軍徽章有之服帽等其職ニ非ズシテ私ニ着用並ニ賣買典物共一切 不相成候條此旨相違候事